

2017年度 事業報告書

(各拠点)

社会福祉法人十字の園

法人本部 2017年度事業報告書

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

『夕暮になっても光がある』（聖書：ゼカリヤ書 14 章）と『人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。』を法人の基本理念としている。理念の共有、醸成を図るため、第2アドナイ館の毎朝の礼拝に法人本部職員が参加した。法人研修、十字の園大会へ積極的に参加し、理念の共通理解に努めた。

B. 運営方針について

法改正により社会福祉法人制度は4月から大幅に変更され、以下の対処を前年度の準備段階から実施・実行していく年となった。①経営組織のガバナンスの強化（評議員会の議決機関化、理事会の執行機関化、監査人導入）②事業運営の透明性の向上（現況報告書に役員報酬総額記載、役員報酬基準の公表）③財務規律の強化（福祉サービスに再投下可能な財産額「社会福祉充実残額」を明確化）は、関連法制度、定款等に基づき対応した。④地域における公益的な取組を実施する責務（社会福祉法人の本旨に従い他の主体では困難な福祉ニーズへの対応）については、従来の取り組みの範囲に留まり課題を残した。⑤内部管理体制については、監事の協力を得て検討したうえで法人管理会議で基本方針を策定し、理事会で決議し、次年度から整備・実行に取り組むこととなった。

十字の園は社会福祉法人として、今まで以上に各地域のニーズに応じて法人・施設が公益的な活動に取り組むと共に、法人単位での組織管理と経営を推進していくことが求められている。

II. 事業計画の達成状況

1. 定款の「キリスト教精神に立って」と十字の園の理念

- ・法人の歴史・精神を理事長メッセージ、研修、広報誌、ホームページ等により情報発信し理念の浸透を図った。広報誌は発行期日が遅れ、編集等に課題を残した。
- ・理事長が健康を回復し、日常の秘書業務は縮小した。

2. 改正社会福祉法に対処した組織体制と将来に向けた経営組織の構築

- ・透明性の向上・・・新様式の現況報告を届け出を行い、定款、役員報酬基準、計算書類等をホームページ等のネットに公表している。情報開示規程の整備、ホームページの見直しは次年度課題とした。
- ・内部管理体制の整備・・・基本方針について、監事の協力を得て現状把握・原案作成し、理事会で決議された。規程の整備・運用を次年度の計画で具体化した。
- ・福祉サービスに再投下可能な財産額「社会福祉充実残額」を明確化した。再投下可能な残額はなかった。
- ・経理の実務担当者会議、勉強会を実施、内部監査を副理事長、労務・財務主任が担当し課題把握と標準化・質向上を図った。
- ・御殿場十字の園の健康保険・厚生年金保険を本部に統合し、法人全拠点の統合が完了した。施設と本部の事務分担の再構築は課題把握に留まった。
- ・浜松十字の園建築計画は一旦保留となったが、省エネ補助金を活用した空調等の改修工事を検討し、次年度工事が決定した。
- ・法人管理会議、研修部門、内部監査部門、人材育成制度改革プロジェクト、各職務部会へ本部役員が参画し、各施設との連携を推進した。
- ・法律、労務、会計の顧問と適宜連携しつつ助言指導を得て各施設と本部が連携して問題解決

に当たった。監査法人と新規契約し、往査、役員・監事との協議等に対応した。

- ・コンプライアンスの徹底・・・法令違反は発生していない。内部管理体制の重要項目として規定等の整備、担当理事、委員会設置を次年度計画とした。
- ・ガバナンスの確立・・・正副理事長、本部長が現組織の課題を検討し、世代交代を踏まえ次年度以降の法人組織体制を次年度計画に提案した。
- ・リスク管理、ハラスメント等の研修は法人全体及び各施設で開催し本部長等が講義を担当し、周知が図られた。相談窓口については、パンフレットの配布、メール配信、掲示等により周知に努めた。
- ・本部への各種相談は本部長、主任が対応し、電話、メール、現地面談で対応し、必要に応じ施設長、関係者と連携し問題解決に当たった。

3. 理念を具現化するための人材の育成と経営・運営のチーム作り

- ・職歴管理システムへの基本的な情報登録は進んだが、活用には課題を残している。人事異動、統計調査等は、給与システムにより活用可能となってきた。
- ・人材育成制度改革PJに本部職員が参画し事務・調整を担当した。評価制度の開始に関わり、次世代人材育成を推進した
- ・職員採用活動・・・各施設の採用担当者を任命し法人採用機関を設置、パンフレット等の作成を企画・実施し、WEB（マイナビ）活用を継続したが採用の厳しさは増している。

2018年度4月採用新卒者実績 5名（目標7名）

- ・ストレスチェックを各施設（西部は3施設合同）で、法令に則って実施した。アフターフォローが課題。
- ・ワークライフバランスを意識してノー残業デーを実施した。各施設の基準によりノー残業を推進させた。
- ・財務、労務、人材育成・確保等の研修、セミナーに参加し、法人本部職員の資質向上、自己啓発を図った。（研修参加合計：21回）
- ・2018年から65歳定年制の実施が決定した。
（原則定年65歳、60歳到達時賃金原則80%上限、下限、セーフティ有り）
- ・職員への法人内支援制度等は進展させられなかった。メンタルヘルス対策の支援業者の活用拡大を検討、着手した。
- ・人材育成制度改革プロジェクトにより評価制度の導入、定年制改革を行った。採用時幹部候補枠創設はPJで継続検討としたい。

4. 施設の健全な経営と中長期計画の具体的な構想作り

- ・各施設経理事務の指導・支援・・・勉強会、メール、電話対応で支援・指導を行った。
- ・各施設の内部監査に本部職員が参加し、監事監査にも同席することにより、監査結果を会計・業務改善に活用した。（内部監査5日、監事監査6日）
- ・適正な財務管理・・・資金不足の拠点への貸付を優先したため、資金集中化目標は達成できず財務基盤の安定は継続課題とした。ホームページへ現況報告、計算書類、事業報告書・事業計画・予算を掲載し、財務管理の透明性を確保した。
- ・経営体制の再構築と中長期計画・・・内部管理体制の整備と役員の世代交代を踏まえた組織管理体制を次年度に計画した。中長期経営計画は継続課題とした。
- ・法制度に左右されない財源確保（介護保険外事業の参加）についての検討はできなかった。

5. 変えることのできるものと、変えることのできないものとを識別する知恵

これからの社会福祉の在り方を見据えた十字の園の取組み

- ・地域貢献活動への参画・・・介護の日の駅前配布活動参加、施設主催のバザー手伝、施設イベントの補助協力等に参画した。
- ・無料、低額での福祉サービス提供、介護保険外事業・・・各施設の取組みに任せた。本部としては、法人の事業方針（拡大、集約、ニッチ化等）により対応していく。

6. 職員状況（2017年度末）

理事長（常勤）1名、本部長（常勤）1名、主任事務員（常勤）2名、事務員（常勤）2名

7. 資金収支、財務状況

（1） 資金収支予算達成状況

（単位；千円、千円未満切捨て）

	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	3,542	4,252	57,675	55,746	△54,133	△51,493
施設整備等による収支	0	0	0	488	0	△488
その他活動による収支	106,505	94,234	42,100	47,669	64,405	46,565
当期資金収支差額					10,272	△5,416

※当初予算と実績差異の主な内容（単位千円）

事業活動収支；職員宿舎家賃収入473増、人件費支出702増、業務委託費支出682減
賃借料支出555減（リースをファイナンスリースへ変更）

施設整備等収支；固定資産取得支出488増（サーバー・システム）

その他活動収支；海外研修積立資産取崩収入1000減（海外研修希望者無し）

拠点区分間繰入金収入11,210減、施設整備等積立資産支出14,400減、
拠点区分間長期貸付金支出21,000増

（2） 設備投資及び積立金の状況

- ・一部拠点の資金収支状況が厳しいため本部から拠点への貸付金を増額し、当該年度の施設整備積立支出は当初予算から1,440万円減額して60万円の積立とした。
- ・給与・財務システムサーバー及びPC端末の更新・増設、監査対応ノート型PC（全てファイナンスリース契約で整備）導入完了。

（3） 借入金及び借入償還の状況・・・該当なし

8. 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
職員	4件	117,000円
入居者	1件	10,000円
一般	10件	330,000円
合計	15件	457,000円

III. 対処すべき課題

1. 内部管理体制基本方針に基づき体制、規定等を整備する。
2. 西部地区、伊豆地区の事務部門を集約統合し、効率化を図る。
3. 本部人材の育成確保（世代交代を踏まえ）
4. 法人及び本部の財務基盤の確立

特別養護老人ホーム 浜松十字の園 2017 年度事業報告書

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

近隣教会の牧師や教会員、隠退牧師の協力により、月曜日から金曜日まで毎朝礼拝を行い、語られる聖書の言葉を通して、理念の土台であるキリスト教の精神に触れ、理念の実践に結びつけた。

B. 運営方針について

1. ケアの質を高め、ご利用者が安心して暮らすことの支援をします。

- ・認知症ケア委員会を創設し、ユニット会議の中で勉強会を開催し、認知症ケアの理解を深めた。
- ・「介護事故 防止・対応マニュアル」の不審者対応手順を現実の場面を想定して見直し運用している。
- ・毎月1回の設備点検により不良箇所を早期改修し、安全な環境を整えた。
- ・静岡県社会福祉士会による第三者評価を受審し長所・短所が評価された。長所を伸ばし、短所を改善する取組を2018年度に行う。

2. 職員同士が共に育つ力を身につけます。

- ・課長とリーダーを増員したことにより、部署ごとで考え実行していく意識が高まった。
- ・施設内研修を年間計画に基づき実施できたが、個別研修計画の整備や習熟度の把握ができていないため2018年度に整備する。
- ・ストレスチェックの実施結果からアンガーマネジメント研修を開催すると共に、外部専門機関のカウンセリングによるメンタルサポートを継続し、働きやすい環境作りに努めた。

3. ユニット棟開設に向けて経営体力の強化に努めます。

- ・ユニット棟開設計画は資金計画に困難さが生じたため一旦保留とし、既存建築物のライフライン修繕を優先して行う計画を進め、国土交通省による省エネ化補助金事業の採択を受け、2018年度前半に空調・照明設備の更新と建物の断熱対策を実施する。
- ・施設改修の原資となる居住費収入を運営費に充てた経営体質になっているため、サービスの質を維持しつつ職員配置を徐々に縮小する取組を行ってきたが、給湯配管破損による修繕費と光熱費の増大により、体質改善は十分にできなかった。2018年度はリフト浴槽導入などにより効率的に業務を遂行できる環境も整えながら、体質改善に努めていく。

II. 事業計画の達成状況

A. 各事業・職場の目標達成状況・実績

1 介護老人福祉施設

- ・介護1F：接遇マナー改善により利用者の立場に立ったサービス提供に取り組んだが具体的な成果は出しづらかった。／ユニットリーダーを複数にしたことによりリーダーが中心になって課題解決していく意識が高まった。／利用者の要望に沿った行事を積極的に企画運営できた。
- ・介護2F：ターミナルケア開始時にはリーダー・担当者を中心に全てのターミナルケア開始時にカンファレンスを行い、新たに振り返りも行う事ができた。
- ・看護：各フロア担当看護師が中心になり介護職員・相談員・健康サポート課が協働し利用者の課題に取り組み、早期対応早期解決を意識した対応ができた。／定期的な情報誌を発行しニーズに応じた情報の発信ができた。／褥瘡を発生させない対応を介護職員と協働して実施できた。

- ・リハビリテーション：常勤職員が退職し、非常勤職員が育児休業に入ったため、クリストファー大学講師の協力を得て、最小限の機能訓練を継続した。施設間異動により 2018 年度から常勤職員が配置されたため、他職種協働でリハビリテーションを行えるチーム作りに努めていく。
- ・生活相談員：介護支援専門員と連携して利用者の希望を叶える活動計画を立て、実施できた。／退所から入所までの空室期間を 10 日以内とする取組を行ったが、2016 年度平均実績 11.3 日に対し 11.7 日だった。入所予定者の体調不良や逝去、退所者の増加により入所予定者が足りなくなることもあり、優先入所判定会で審議を受ける対象者を増やすことを 2018 年度に取り組む。
- ・介護支援専門員：入所前に行った情報収集を基に多職種連携で生活環境を整えることができ、入所後も戸惑うことなく暮らされる方や活動性が上がり ADL が向上された方がいた。生活相談員と連携してご利用者の外出支援を行うことができ、施設の中とは違う生き生きとした表情を見ることができた。
- ・食事：経口維持加算の算定プロセスを通し、より安全な食事時間を過ごせるようになった。／委託業者の協力を得て、毎月何らかの行事食を提供し、利用者から好評を得た。
- ・総務：光熱費削減に取り組んだが気温の変化が大きく電力デマンド値を増加させてしまった。給湯配管破損によりガス代が増大したが設備改修後は前年度よりも使用量を大きく削減できた。

2 短期入所

- ・相談業務担当を決め、ケアマネなど外部との連絡事項がスムーズに行えるようになり、稼働率の向上につながった。／利用者が自宅での生活を継続できるようリハビリやレクを通して ADL の保持、事故の防止に努めたが十分な実施ができなかった。／特養との連携により長期利用者の確保に努めたが 80% を下回る時期が続いた。しかし 2 月以降は 85% 前後を維持し、目標とした年間稼働率 85.0% には達しなかったが 80.2% となった。

3 通所介護

- ・リハビリメニューを利用者が自発的に選択できるようホワイトボードを作成し、常時 5 種類程度のメニューを用意できた。より自発性を持てるよう継続して取り組んでいく。／3 ヶ月に 1 回のペースで、日常提供している作業リハビリの意味を作業療法士が伝える勉強会を実施した。／6～9 月は稼働率 80% 台を維持したが、1 月にサービス提供中にインフルエンザ発症者があり利用者数が一桁の状態が 1 週間続き稼働率が激減したこともあり、年間目標稼働率 85.0% に対し 75.1% の結果になった。

4 診療所

- ・医療機関との医師派遣契約を結び医師が増えたことにより、急変時の対応が速やかに行える体制が整った。／レセプト業務を施設職員が担当することになったが、トラブルもなく移行作業ができた。

B. 利用実績

(職員数は2017年度末月現在の数とする)

	特 養	短 期	通 所	事業活動収入計 職員数合計
利用定員	120人	20人	22人	—
利用者延数	43,064人	5,854人	5,122人	—
1日平均利用者数	118.0人	16.0人	16.5人	—
稼働率、稼働指数	98.3%	80.2%	75.1%	—
稼働日数	365日	365日	310日	—
単価(一人一日当たり)	11,058円	10,814円	9,047円	—
介護保険事業収入(千円)	476,184千円	63,304千円	46,336千円	593,426千円
職員数(常勤換算)	67.8人	10.1人	8.6人	86.5人

C. 資金収支、財務状況

1 資金収支予算達成状況

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	609,263	593,425	568,714	570,249	40,549	23,176
施設整備による収支	680	680	4,140	4,312	△3,460	△3,632
その他活動による収支	4,570	5,583	41,500	19,288	△36,930	△13,704
当期資金収支					159	5,840

(当初予算との増減差額が大きい要因)

- ・収入について：在宅は入所施設が増えたことにより、短期は目標稼働率85.0%に対して80.2%、通所は85.0%に対して75.1%となり収入は986万円減少した。建築計画が保留になったため寄付金は394万円減少した。
- ・支出について：給湯配管破損によるガス使用量の増大により水道光熱費が266万円増加した。収入の減少により施設整備積立1,850万円減、本部拠点への繰入371万円減となった。

2 設備投資及び積立金の状況 (千円単位)

- ・固定資産取得：電気給湯器2,469
- ・積立、取崩：施設整備積立500、施設整備積立取崩0

3 借入金及び借入金償還の状況 (千円単位)

- ・元金償還1,500、利子33、元金補給680、利子補給3、年度末残高1,500
- ・新規借入金：なし

III. 対処すべき課題

1 利用者が安心して暮らすことの支援

(自立支援の促進、ニーズへの対応、安全快適な生活環境の整備)

2 職員同士が共に育つ力を身につける

(職場のチーム力向上、自発的な労働環境改善、職員育成の充実)

3 地域ニーズに応えるための経営体力強化

(西部地区3施設の一体化推進、十字の園の情報発信と地域ニーズへの対応、居住費収入を運営費に充てない体制作り、建替計画の見直し、医療体制の整備)

1.施設利用の状況

区分		2017年	2016年
入居者数	男	30人	30人
	女	89人	87人
	計	119人	117人
利用日数	男	10,681日	10,544日
	女	32,383日	32,082日
	計	43,064日	42,626日
平均入居期間	男	3.02年	3.00年
	女	3.09年	3.09年
	計	3.08年	3.07年
最長入居期間	男	21.00年	20.00年
	女	19.10年	18.10年

区分		2017年	2016年
平均年齢	男	89歳	80歳
	女	88歳	88歳
	計	86歳	86歳
最高年齢	男	96歳	100歳
	女	103歳	107歳
最低年齢	男	65歳	65歳
	女	65歳	64歳
出身地域	圏内	117人	115人
	圏外	2人	0人
	県外	0人	2人
平均介護度		3.67	3.69

区分		2017年	2016年
新入居者数	男	12人	11人
	女	22人	19人
	計	34人	30人
退居者数	男	12人	10人
	女	20人	21人
	計	32人	31人
入院者数	男	9人	12人
	女	17人	10人
	計	26人	22人
入院日数	男	111日	171日
	女	278日	195日
	計	389日	366日

入居者の介護度区分

区分	2017年	2016年
自立	0人	0人
要支援	0人	0人
要介護度1	3人	5人
要介護度2	12人	10人
要介護度3	38人	35人
要介護度4	40人	34人
要介護度5	26人	33人

入居前住居

区分	2017年	2016年
自宅	24人	19人
病院	4人	4人
老健施設	5人	6人
療養型	0人	0人
グループホーム	1人	0人
他施設	0人	1人

退居者内訳

区分	2017年	2016年
死亡	30人	22人
帰宅	0人	0人
病院へ転出	2人	9人
他施設へ転出	0人	0人
その他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2017年度	2016年度
短期入所生活介護事業	延人数	479	474	465	481	477	508	498	514	491	456	488	523	5,854人	5,177人
	一日平均	16.0	15.3	15.5	15.5	15.4	16.9	16.1	17.1	15.8	14.7	17.4	16.9	16.0人	14.2人
	営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	365日
通所介護事業(一般型)	延人数	394	457	466	445	477	463	452	427	421	287	372	461	5,122人	5,519人
	一日平均	15.8	16.9	17.9	17.1	17.7	17.8	17.4	16.4	16.2	12.0	15.5	17.1	16.5人	17.8人
	営業日数	25	27	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310日	310日

V. 職員の状況

職種	配置		男				女				就職転入		退職転出		比較増減			
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤		
	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤		
施設長	1	0	0	0	1										0	0		
事務員	4	0	1	0	1	1		3			1	1		0	0			
相談員	2	1	0	0	1			1	1		1	1		0	0			
介護支援専門員	1	1	0	0				1	1				1	0	-1			
直接処遇職員	生活支援員	0	0	0	0										0	0		
	介護職員	47	0	11	0	20	1	27	10		8	2	3	3	5	-1		
	看護職員	6	0	2	0	3		3	2			1	1		-1	1		
	機能訓練職員	0	0	6	0		5		1				1		-1	0		
栄養士	1	0	1	0				1	1					0	0			
調理師・員	0	0	0	0										0	0			
医師	1	0	3	0	1	3					1			0	1			
その他	0	0	20	0		2			18				1	0	-1			
小計	63	2	44	0	27	0	12	0	36	2	32	0	10	4	7	5	3	-1
在宅事業	通所(一般)	5	0	7	0	2	1	3	6		2	1	2	1	0	0		
	小計	5	0	7	0	2	0	1	0	3	0	6	0	2	1	2	1	0
合計	68	2	51	0	29	0	13	0	39	2	38	0	12	5	9	6	3	-1

* 現員は2018年3月31日現在。

就退職は2017年度内増減。

VI. 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
役員	2件	50,000円
職員	22件	325,000円
業者	0件	0円
入居者	4件	365,000円
入居者家族	12件	221,000円
遺族	5件	720,000円
在宅一般	1件	20,000円
合計	41件	357,701円

その他寄付金収入

寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

総合福祉施設 御殿場十字の園 2017年度事業報告

I. 総 括

A. 理念の継承、精神的基盤について

御殿場教会のご奉仕や職員により平日は朝の礼拝から祈りと感謝をもって一日を始められた。また、施設機関紙の発行や法人研修などへの積極的な参加、理事長著書『創立の精神（こころ）の継承（バトンタッチ）』などを通し、理念の共有、醸成を図り共に生きる地域社会を目指し、一人ひとりを大切にされた様々な福祉サービスの充実に努めた。

B. 運営方針について

1. 利用者一人一人を大切にされた支援：清潔かつ安全で居心地の良い環境を目指し、5 S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の徹底や清掃業務委託の見直し、障子や壁紙の張替えなど行った。また、施設や在宅サービスの利用者や家族に対し、満足度調査を実施し改善に向け取り組んだ。
2. 拠点施設としての役割：「断らない」をモットーにして、全事業所と部署が連携し、困難事例を含め対応した。また、利用ニーズの高い事業所（訪問介護等）への職員の増員を行い、「断らない」ための体制づくりに努めた。
3. チームワークの強化：法人研修に加えて施設内の階層別研修を引き続き実施し、職員の資質、組織力の向上を図った。また、自主運営組織としてHYS（働きやすい施設）委員会が発足し、5 Sの推進や職員アンケートの実施など行い職場環境の改善に向け取り組んだ。
4. 経営の安定：施設利用者の入院の減少や訪問介護の利用増などにより収入増となり、支出は人件費の増加はあるものの清掃業務委託の見直しや光熱費の削減などのよって減少し、収支差額は改善された。
5. 施設や地域の課題に向けた取り組み：「御殿場十字の園未来志向プロジェクト 2025」に沿いつつ計画的に施設改修や地域の課題に向け取り組んだ。

II. 事業計画・目標の達成状況・実績

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. 介護老人福祉施設：各リーダーや主任を中心に施設見学やセミナーに参加し、5 Sの推進など居住環境の改善に向け取り組んだ。また、全職員で業務手順書を作成し、業務の標準化を図った。排泄について研修会を行い、利用者一人一人にあった排泄ケアに取り組んだ。
2. 短期入所生活介護：包括や行政と連携し、緊急受入れを積極的に行い、在宅生活の支援に努めた。また、利用者との作品作りを通じ、フロア内が季節感を感じる雰囲気となった。
3. 通所介護（通常規模、サライト）：作業療法士の常勤配置により専門的なメニューを提供することができた。また、利用や送迎の時間を柔軟に行うことにより利用者や家族のニーズに応えられるよう努めた。ごてんば通所介護（通常規模）は、入院者や施設入所者の増加等により利用率は低下したが、ひだまりデイ（サテライト）は新規利用を積極的に受け入れるなど利用率は目標を達成した。しかし、ひだまりデイの建物老朽化が課題のままであり、今後、移転等に向け取り組んでいく。
4. 訪問介護：喀痰吸引研修を2名の職員が修了し、医療ニーズの高い方への支援の充実が図れた。また、他部門・事業所の職員と協働するなどしてサービス提供の拡充が図れ、利用が約1.3倍向上した。登録ヘルパーの増員は出来ず、安定した体制作りは今後の課題である。
5. 居宅介護支援：職員1名が急な体調不良により他部署へ異動したため、新規利用に十分応えきれず、担当の調整等に苦慮した。12月より常勤1名を配置でき、少しずつ新規利用が増えるなど安定してきた。今後職員を増員し、断らないための支援体制を築いていく。
6. 地域包括支援センター：地域ケア会議や個別ケース会議を開催し、地域の課題の共有や困難事例への対応を行った。また、予防プランや相談ケースは年々増え続け、市と協議しながら次年度よりセンターを1か所増設することで準備を行った。
7. 認知症対応型通所介護：家族支援の一環としての家族介護者教室（絆の会）は5年目を迎え、

「新総合事業」について学び合った。本年度は教室を1回しか開催できず、次年度以降は対象者や内容などを含め見直していく。利用者に対し個別的な対応を要する方が増え、工夫して支援した。運営推進会議は2回開催し、利用状況の報告や意見交換等を行った。

8. 認知症対応型共同生活介護：近隣の散歩や地域行事等への積極的な参加などを続け地域との交流に努めた。開所4年目を迎え、近隣の方より声をかけていただいたり、野菜をいただいたりなど、地域に認知され根付いてきたことを感じる。支援では利用者一人一人の出来ることに着目し、また、利用者同士の互助の関係を築きながらいきいきと暮らし続けられるよう、職員の「観察力」を高めるなどのスキルアップに努めた。

障害者自立支援事業

(介護給付)

1. 居宅介護・同行援護：利用者の高齢化により介護保険に移行される方などが増え、利用率は低下傾向にあった。今後、訪問介護と合わせ職員や登録ヘルパーの増員等を図り、利用ニーズに対し断らない体制構築を目指し次年度以降に取り組んでいく。同行援護は資格の経過措置期間が終了するのに対し、必要な研修等を受講した。
2. 障害者短期入所：障がいの特性等に配慮したレクリエーションや個別の余暇活動への支援に努めたが高齢の方と一緒にを行うのは難しいこともあった。今後さらに個別性や強みを捉えて参加できるよう活動を工夫していく。

(地域活動支援)

1. 地域活動支援センター：「一笑懸命作戦」を標語に掲げ、笑顔になって帰宅していただけるよう、日中活動の充実や買い物など施設外活動の機会を増やし社会交流等の促進に努めた。
2. 移動支援事業：障がい部門と連携し新規利用が増え、利用者の行動範囲の拡大に貢献できた。数値目標もほぼ達成された。
3. 相談支援事業：あきらめない寄り添った支援に心がけ、可能な限り訪問での相談に努めた。プラン作成は対象となる方がほぼ落ち着いたため昨年とほぼ同じ件数で推移した。また、自立支援協議会へ参画し地域の課題に取り組んだ。

その他事業等

1. 診療所：医師との連携が細目に行え、入院や急変される方が減少し、看取り対応の方が増加した。また、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症は、職員は数名かかるも特養利用者は0名であった。
2. 給食：他職種との情報交換を積極的に行い、利用者の状態変化に臨機応変に対応するよう努めた。お菓子パーティーは通所事業所や特養の他にケアハウスでも開催し好評であった。
3. 介護タクシー事業：困難事例の受入れや透析送迎などを行った。また、開業から12年が経過し、利用内容は病院受診以外に、買い物や映画鑑賞、イルミネーション見学など余暇活動につながる利用も目立ってきた。
4. 家族介護支援：在宅家族介護者教室として「絆の会」を1回開催した。今後、利用している家族だけでなく、地域の方も参加できるよう広報していく。
5. ボランティア受け入れ：延べ1,761人のボランティアに協力頂け、サービスの向上につながった。
6. 広報活動：ホームページを随時更新、機関誌を3回発行、事業所毎に新聞を定期発行した。
7. 第4回ポスターセッションを開催し各部署・事業所が協働し8部門の取り組み紹介や実践発表を行った。

B. 利用実績

	特養	短期入所	通所介護	サテライト型通所介護	認知症対応型通所介護	訪問介護	居宅介護支援
利用定員	107人	11人	35人	10人	12人		
利用者延数	38,863人	3,617人	8,679人	2,014人	3,173人	4,822時間	2,630
一日平均利用者数	106.5人	9.9人	24.0人	7.8人	10.2人	13.2時間	219.2件
稼働率、稼働指数	99.5%	90.1%	68.7%	78.4%	85.3%		
稼働日数	365日	365日	361日	257日	310日	365日	12日
単価(一人一日当たり)	11,158円	15,725円	8,776円	9,399円	12,311円	3,787円	15,983円
収入(千円) ※	433,619	56,878	76,166	18,930	39,063	18,261	42,036
職員数(常勤換算)	68.1人	6.54人	9.89人	3.09人	5.72人	3.9人	6.3人
	地域包括支援センター	地域活動支援センター	障がい者短期入所	障がい者居宅介護	同行援護	障がい者移動支援	障がい者相談支援
利用定員		15人					
利用者延数		3,120人	158人	855時間	820時間	292時間	880件
一日平均利用者数		12.1人	0.4人	2.3時間	2.2時間	0.8時間	2.4件
稼働率、稼働指数		80.9%					
稼働日数	365日	257日	365日	365日	365日	365日	365日
単価(一人一日当たり)		7,955円	22,753円	4,281円	3,449円	2,740円	10,216円
収入(千円) ※	37,011	24,820	3,595	3,660	2,828	800	8,990
職員数(常勤換算)	5.1人	5.27人	1.5人	1.08人	0.88人	0.28人	1.11人
	介護タクシー	グループホーム	事業活動収入・職員数 合計	※通所介護の定員は平日35人、土曜日25人、日曜日15人で、表内の稼働率は35人定員として計算。平日のみの稼働率は83.3%。			
利用定員		18人					
利用者延数	1,898回	6,422人					
一日平均利用者数	5.2回	17.6人					
稼働率、稼働指数		97.7%					
稼働日数	363日	365日					
単価(一人一日当たり)	698円	13,508円					
収入(千円) ※	1,325	86,746	854,728	※収入は介護保険事業収入、障害福祉サービス事業収入			
職員数(常勤換算)	0.4人	15.3人	134.46人				

C. 資金収支、財務状況

1. 資金収支予算達成状況

(単位 ; 千円、未満切捨て)

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	863,241	863,284	801,223	777,002	62,018	86,281
施設整備による収支	6,965	21,965	52,573	73,828	△45,608	△51,863
その他活動による収支	10,470	17,316	25,932	50,841	△15,462	△33,525
当期資金収支					948	893

事業活動収支:収入は各事業等で増減はあるもほぼ予算通りとなり、支出は人員の増員等の見直し、光熱費の削減や清掃業務委託の見直しなどにより減少、収支差額は24,263千円増となった。

2. 設備投資及び積立金の状況

- ・ 固定資産取得等 : 居宅車両買替 780 千円、診療所暗室自動X線フィルム現像装置購入 472 千円、厨房温蔵庫買替 1,231 千円、物置 2 個設置 880 千円、旧職員宿舍解体工事 5,184 千円、外灯電源移設及び外灯増設工事 982 千円、土地取得や建設仮勘定取得支出 21,567 千円
- ・ 高額修繕等 : 短期入所居室床改修工事 430 千円 (4 人部屋 1 室)、浄化槽修理 509 千円、正面玄関自動ドア駆動装置交換修理 (外側と内側) 計 615 千円
- ・ 積立・取崩等 : 施設整備積立取崩 13,000 千円、施設整備積立 25,000 千円、拠点間繰入 23,992 千円

3. 借入金及び借入償還の状況

- ・ 包括事務所用土地購入等に関わる新規銀行借入 15,000 千円、
- ・ 当期償還 4,130 千円、元金補助金 6,965 千円、年度末残高 153,327 千円

III. 対処すべき課題

1. サテライト型ひだまりデイの耐震上の課題あり移転若しくは新規事業を計画する。
2. 地域包括支援センターの新規開設及び事務所移転。登録ヘルパー等の募集増員。

Ⅳ利用者の状況(2017年度)

施設名 御殿場十字の園

1.施設利用の状況(基準日:3月31日)

区分		2017年度	2016年度
入居者数	男	28人	28人
	女	76人	79人
	計	104人	107人
利用日数	男	10,668日	10,076日
	女	28,195日	28,554日
	計	38,863日	38,630日
平均入居期間	男	4.5年	3.8年
	女	4.7年	4.7年
	計	4.6年	4.5年
最長入居期間	男	16.1年	15.1年
	女	21.1年	25.9年

区分		2017年度	2016年度
平均年齢	男	78.3才	78.1才
	女	87.6才	87.8才
	計	85.0才	85.1才
最高年齢	男	96.5才	95.5才
	女	102.0才	105.1才
最低年齢	男	62.2才	61.2才
	女	68.0才	67.0才
出身地域	園内	83人	86人
	園外	16人	15人
平均介護度	園内	3.62	3.42
	園外	5人	6人

区分		2017年度	2016年度
新入居者数	男	4人	8人
	女	15人	16人
	計	19人	24人
退居者数	男	5人	5人
	女	17人	16人
	計	22人	21人
入院者数	男	3人	10人
	女	13人	18人
	計	16人	28人
入院日数	男	63日	260日
	女	427日	358日
	計	490日	618日

入居者の介護度区分

区分	2017年度	2016年度
自立	0人	0人
要支援	0人	0人
要介護度1	6人	10人
要介護度2	13人	16人
要介護度3	27人	28人
要介護度4	27人	25人
要介護度5	31人	28人

入居前住居

区分	2017年度	2016年度
自宅	15人	14人
病院	2人	4人
老健施設	0人	2人
療養型	0人	0人
グループホーム	2人	1人
他施設	0人	3人

退居者内訳

区分	2017年度	2016年度
死亡	18人	17人
帰宅	1人	0人
病院へ転出	3人	4人
他施設へ転出	0人	0人
その他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2017年度	2016年度
短期入所生活介護事業	利用延人数	307	307	323	294	299	297	289	277	309	309	272	334	3,617人	3,582人
	平均人数	10.2	9.9	10.8	9.5	9.6	9.9	9.3	9.2	10	10	9.4	10.8	9.9人	9.8人
通所介護事業(一般型)	利用延人数	684	735	729	747	749	737	740	753	766	617	666	756	8,679人	9,024人
	平均人数	22.8	23.7	24.3	24.1	24.2	25.4	23.9	25.1	25.5	21.3	23.8	24.4	24.0人	24.9人
	開所日数	30	31	30	31	31	29	31	30	30	29	28	31	361日	363日
通所介護事業(サテライト型)	利用延人数	170	198	162	148	172	161	179	175	173	156	146	174	2,014人	2,005人
	平均人数	8.5	8.6	7.4	7	7.5	7.7	8.1	8	8.2	7.8	7.3	7.9	7.8人	7.8人
	開所日数	20	23	22	21	23	21	22	22	21	20	20	22	257日	258日
通所介護事業(認知症対応型)	利用延人数	248	285	284	272	306	276	274	275	255	239	222	237	3,173人	3,143人
	平均人数	10	11	11	10	11	11	11	11	10	10	9	9	10.2人	10.2人
	開所日数	25	27	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310日	309日
認知症対応型共同生活介護	利用延人数	514	547	530	532	527	527	558	540	533	555	504	555	6,422人	6,461人
	平均人数	17	18	18	17	17	18	18	18	17	18	18	18	17.6人	17.7人
訪問介護事業	訪問回数	381	423	378	389	430	407	428	455	408	404	382	469	4,954件	4,100件
	訪問延時間	363.3	400.7	470.8	371.4	397.7	375.7	427.4	429.3	390.7	377.5	369	448.9	4,822時間	3,734時間
居宅介護支援事業	作成件数	233	230	236	233	233	216	211	210	205	201	212	210	2,630件	2,825件
	総合相談件数	613	496	473	541	577	618	644	575	402	495	537	468	6,439件	7,094件
地域包括支援センター事業	予防支援件数	157	159	168	172	171	167	173	180	186	197	190	187	2,107件	1,797件
	障がい者短期入所事業	利用人数	13	16	10	10	12	14	15	16	16	13	10	13	158人
障がい者居宅介護事業	訪問延時	76	87	100	79.3	87.8	89.8	59	59.5	63.3	46	42	65.5	855時間	1,044時間
	訪問延時	95	87.5	87	64.5	56	67.5	65.5	71	68	42.5	54.5	61	820時間	838時間
障がい者同行援護事業	訪問延時	22	28	26	32	24.5	23	17	25.5	26	19.5	23.5	25	292時間	309時間
	訪問延時	22	28	26	32	24.5	23	17	25.5	26	19.5	23.5	25	292時間	309時間
障がい者地域活動支援センター事業	利用延人数	249	298	280	273	287	255	260	276	252	220	222	248	3,120人	3,215人
	平均人数	12	13	13	13	12	12	12	13	12	11	11	11	12.1人	12.4人
	開所日数	20	23	22	21	23	21	22	22	21	20	20	22	257日	260日
障がい者相談支援事業	相談件数	67	55	60	67	79	87	73	75	103	78	61	75	880件	933件
	介護タクシー	輸送回数	158	204	184	159	165	139	150	133	129	147	137	1,898回	1,736回
持ち帰り弁当	食数	36	50	58	70	57	52	52	63	61	61	56	60	676食	536食

職員の状況

職種	配置		男		女		就職		退職		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施設長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事務員	6	1	3	0	3	1	0	0	0	0	0	0
相談員	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
介護支援専門員	3	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
直接処遇職員	生活支援員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	介護職員	40	12	16	3	24	9	7	1	4	4	3△3
	看護職員	3	4	1	0	2	4	1	0	2	0	△1
機能訓練職員	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	
栄養士	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
調理師・員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
医師	0	2		2	0	0	0	1	0	0	0	
その他	1	7	0	4	1	3	0	1	0	0	0	
小計	58	27	23	9	35	18	8	3	6	4	2△1	
在宅事業	通所事業等	18	16	4	6	14	10	1	1	0	0	1
	訪問介護	3	14	1	0	2	14	1	0	0	2	1△2
	居宅支援	5	1	0	0	5	1	1	0	1	0	0
	包括支援	5	0	1	0	4	0	0	0	1	0	△1
	グループホーム	12	6	5	0	7	6	1	1	1	1	0
小計	43	37	11	6	32	31	4	2	3	3	1△1	
合計	101	64	34	15	67	49	12	5	9	7	3△2	

*現員は2018年3月31日現在 就退職は2017年度内増減

寄付金収入

区分	件数	寄付金額
役員	0件	0円
職員	1件	7,000円
業者	0件	0円
入居者	1件	30,000円
入居者家族	11件	1,273,000円
遺族	2件	150,000円
在宅	6件	1,120,000円
一般	52件	977,420円
合計	73件	3,557,420円
その他寄付金収入		
寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

軽費老人ホーム（ケアハウス）御殿場アドナイ館 2017年度事業報告

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

御殿場教会のご奉仕や職員により平日は朝の礼拝から祈りと感謝をもって一日を始められた。また、施設機関紙の発行や法人研修などへの積極的な参加、理事長著書『創立の精神（こころ）の継承（バトンタッチ）』などを通し、理念の共有、醸成を図り共に生きる地域社会を目指し、一人ひとりを大切にしながら様々な福祉サービスの充実に努めた。

そして、「それでアブラハムはその所の名をアドナイ・エレと呼んだ。これにより、人々は今日もお『主の山に備えあり』と言う。」創世記22章14節。主が備えてくださったこの施設に住む者が、安心して心豊かに生活が出来るようにと、入居者のきめ細かな生活支援に努めた。

B. 運営方針について

1. 入居者が明るく楽しく心豊かに生活できるように支援する。

健康体操教室や散歩会を定期的に開催して入居者の健康維持、増進に努めた。また、通院支援、居室配膳、配薬などの日常生活支援サービスの継続とともに、居宅サービスと連携し、可能な限りケアハウスでの入居が安心して継続できるよう努めた。

2. 入居者の余暇の充実や入居者同士の互助を促進し生活の質の向上を目指す。

買物送迎の実施や、春夏の遠足、外食、映画鑑賞、カラオケ大会など定期的に開催し、入居者同士の親睦を深めながら生活の質の向上を目指した。

3. 入居者の望む暮らしを支えるとともに、地域の様々な生活困窮者への支援に努める。

毎月、よろず相談として相談日を設置するとともに、気軽に相談出来るよう職員の資質向上に努めた。また、市の生活保護担当者へ相談し受けられる社会資源の把握や入居者の就労サポートを行った。

4. 職員の各専門性の向上とともに、働く意欲、チームワークを高めあう。

毎月他の部署を交えた職員会議を開催し情報の共有を図った。また、外部研修等に参加し、資質の向上を図った。

5. 健全な経営に努める。

入居希望者への早めの連絡や入所調整等を行い空床がないよう努めた。また、建物の老朽化に対し設備等の更新を順次実施した。

II. 事業計画・目標の達成状況・実績

A. 各事業・職場の目標達成状況

各種の事業について、生活の充実をはかる為に、以下のことに取り組んだ。

1. 利用者の健康維持、増進

健康体操を月2回、談話室で行った。内容として、ラジオ体操及びきぼう体操（呼吸・上肢、下肢、各関節に対する運動など）を実施。また、雨などで散歩やウォーキングが出来ない時はウォーキングマシン等を設置し、いつでも運動が出来る環境を整えた。

2. 生活の質の向上

毎月、カラオケや映画の会、親睦会などのレクリエーションを継続して行った。また、春と秋にはドライブ外出を行い、季節を肌で感じながら入居者同士の親睦を深め生活の質の向上を目指した。

3. 入居待機者の確保

入居待機者リストの見直し及び電話にて待機者の現状確認を行った。また、自治体へのパンフレット配布等を行い入居待機者の確保に努めた。

B. 利用実績

	ケアハウス	
利用定員	30人	
利用者延数	10,950人	
一日平均利用者数	30人	
稼働率、稼働指数	100.0%	
稼働日数	365日	
単価(一人一日当たり)	5,122円	事業活動収入計
老人福祉事業収入	56,081千円	56,301千円
職員数(常勤換算)	3.4人	

C. 資金収支、財務状況

1. 資金収支予算達成状況

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	65,308	56,301	53,453	47,520	11,855	8,780
施設整備による収支	3,315	3,315	6,630	12,786	△3,315	△9,471
その他活動による収支	10,000	15,307	18,288	14,085	△8,288	1,222
当期資金収支					252	532

収入支出：入居時一時金について一括方式と分割方式があり、分割方式を選択される方が増えたことにより、管理費収入と管理費返還支出が共に減少した。当期資金収支差額にはあまり影響はない。

2. 設備投資及び積立金の状況

- ・居室空調改修工事 6,156 千円、修繕費積立資産取崩 4,000 千円
- ・修繕費積立 1,000 千円
- ・その他高額修繕等：自動扉修理 291 千円

3. 借入金及び借入償還の状況

- ・当期償還 6,630 千円、元金補助金 3,315 千円、年度末残高 12,425 千円

III. 対処すべき課題

1. 要支援・介護者が年々増加傾向にあり、在宅サービス事業者との連携強化。
2. 預金を取り崩して入居されている方などに対する相談支援等の強化。
3. 全面改築から 18 年が経ち、施設の外壁塗装など改修工事が順次必要。

IV利用者の状況(2017年度)

施設名 御殿場アドナイ館

1.施設利用の状況(基準日:3月31日)

区分		2017年度	2016年度
入居者数	男	9人	11人
	女	21人	19人
	計	30人	30人
利用日数	男	3,894日	4,015日
	女	7,056日	6,874日
	計	10,950日	10,889日
平均入居期間	男	5.7年	4.8年
	女	5.1年	4.1年
	計	5.3年	4.4年
最長入居期間	男	11.9年	10.9年
	女	8.6年	9.3年

区分		2017年度	2016年度
平均年齢	男	62.4歳	83.0歳
	女	82.7歳	82.6歳
	計	82.6歳	82.8歳
最高年齢	男	99歳	98歳
	女	92歳	91歳
最低年齢	男	67歳	66歳
	女	48歳	70歳
出身地域	圏内	19人	13人
	圏外	6人	11人
	県外	5人	6人
平均介護度		1.24	1.1

区分		2017年度	2016年度
新入居者数	男	2人	1人
	女	5人	2人
	計	7人	3人
退居者数	男	4人	0人
	女	3人	3人
	計	7人	3人
入院者数	男	1人	3人
	女	3人	5人
	計	4人	8人
入院日数	男	200日	303日
	女	55日	217日
	計	255日	520日

入居者の介護度区分

区分	2017年度	2016年度
自立	16人	15人
要支援	3人	5人
要介護度1	5人	5人
要介護度2	5人	5人
要介護度3	0人	0人
要介護度4	0人	0人
要介護度5	0人	0人
重度障害	1人	0人

入居前住居

区分	2017年度	2016年度
自宅	6人	3人
病院	0人	0人
老健施設	0人	0人
療養型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他施設	1人	0人

退居者内訳

区分	2017年度	2016年度
死亡	1人	2人
帰宅	1人	1人
病院へ転出	0人	0人
他施設へ転出	5人	0人
その他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

実施なし

3.職員の状況

職種	配置		男		女		就職		退職		比較増減		
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
施設長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
事務員	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相談員	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
介護支援専門員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
直接処遇職員	生活支援員	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0
	介護職員	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	看護職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能訓練職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄養士	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
調理師・員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
医師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計	6	1	3	0	2	1	1	0	1	0	0	0	
合計	6	1	3	0	2	1	1	0	1	0	0	0	

*施設長,事務員,栄養士は特養兼務

*現員は2018年3月31日現在 就退職は2017年度内増減

4.寄付金収入

区分	件数	寄付金額
役員	0件	0円
職員	0件	0円
業者	0件	0円
入居者	1件	10,000円
入居者家族	0件	0円
遺族	0件	0円
在宅	0件	0円
一般	1件	507円
合計	2件	10,507円
その他寄付金収入		
寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

特別養護老人ホーム 伊豆高原十字の園 2017年度事業報告書

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

法人の基本理念を理解できるよう、各部署で始業時、理念の唱和を行うほか、礼拝への参加を促すとともに、理解を深めるために礼拝奉仕者の協力のもと勉強会を開催、実践できた。また、施設の運営理念に則り、地域に根ざし、地域とともに歩むために、対島地域ふるさと協議会として協力し、地域住民や関係団体とも連携した運営ができた。

B. 運営方針について

1. 経営、運営の健全化；総合事業への移行の他、利用者の入院、入所などで目標値を下回った事業があったが、職員一人ひとりに意識させ、今後も健全な運営の維持、向上を目指す。
2. 働きやすい環境作り；新入職員や現リーダー向けにサーバントリーダーシップの考え方や十字の園の歴史、創立の精神に触れる機会を設けた。また、職員が奉仕の精神を培うよう毎月第2金曜日を奉仕の日とし、ボランティアと共働した。また、6S運動を実施することで職場環境を整えた。
3. 施設のPR；フェイスブックを活用し、施設のPRに努めた。ホームページ、パンフレットの修正を行ったが、引き続き研究していく。
4. 地域福祉の推進；民生委員や老人会の集まり、地域の行事などに対島地域ふるさと協議会と連携して出席することで、地域福祉を推進できた。
5. 平和の杜との連携；伊東市立養護老人ホーム平和の杜と第22回十字の園大会や交換研修、勉強会などを連携して行った。また、「くつろぎの家」については、定期的に話し合いを持ち、健全な運営について相互協力に尽力した。

II. 事業計画の達成状況

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. 介護老人福祉施設事業

- 1) 生活支援室；人員不足の中でも、意向に沿った支援を心掛け、特に全体でのイベントを実施することで、生活の中に楽しみを増やす事ができた。
- 2) 看護室；入居者の医療の必要度に合わせ、カンファレンスを行い、他職種との連携をして生活の質を高める支援をすることができた。
- 3) 生活相談室；ボランティア受入により入居利用者の生活の質向上を実現出来た。入居利用者及びご家族の意向に沿い、配慮ある生活環境の提供を実施した。
- 4) 給食室；新規行事や新メニューの開発等、美味しく楽しみがある食事提供をし、勉強会を充実し個々のスキルアップ・知識向上を行った。職員の定期的な交換をし、平和の杜と連携を深めた。
- 5) 事務室；事務員各自の業務内容を見直し、削減・簡略化と担当替えをすることで効率化ができた。

2. 地域包括支援センター事業

地域ケア会議では、地域課題である見守り支援、認知症カフェなどの開催を行い、地域のネットワーク作りにつながった。また、総合事業は市との連携に努めている。

3. 居宅介護支援事業（特定事業所）

包括からの困難事例、又は新規受け入れの迅速な相談業務の対応により、信頼の置ける事業所として、充足率100%を超えることができた。

4. 短期入所生活介護事業

安全で安心して利用でき、満足度を高めることで、信頼を得て利用率の向上に繋がった。

5. 通所介護事業

統一されたサービスを提供するために、会議や日誌・統一処遇の活用に努めた。また、家族・他事業所への迅速な連絡により今まで以上に信頼を得ることができた。

6. 介護予防事業Ⅰ・Ⅱ

教室やサロン等新規会場を設定し、地域支援事業の周知を展開する事が出来た。また、総合事業開始により、通所サービスの検討をした。

7. 訪問介護事業

研修会の参加を推進したことによって職員一人一人の意識を上げた。また、日誌やPC確認により情報を共有でき速やかな対応が出来た。

8. 移送サービス事業

運転・乗降介助については安全に行われ、事故もなく、高齢者の外出支援をすることで生き甲斐へと繋げた。

9. 配食サービス事業

特養の特色を生かし、その方に合った食事形態・内容での弁当配達を行った。行事食等により楽しみある食事・笑顔での配達により在宅生活継続の支えとなった。

B. 利用実績

事業名	介護老人福祉	短期入所	通所介護	訪問介護	居宅介護支援
利用定員	90 人	10 人	27 人	人	人
利用者延数	32,455 人	3,473 人	7,290 人	18,013 時	2,682 件
一日平均利用者数	88.9 人	9.5 人	23.7 人	48.8 時	件
稼働率・稼働指数	98.7 %	95.2 %	87.8 %	%	%
稼働日数	365 日	365 日	310 日	365 日	254 日
単価 (一日一人当り)	13,428 円	12,726 円	9,149 円	3,220 円	13,194 円
介護保険事業収入 (千円)	435,832 千円	44,199	66,702	58,012	35,388
職員数(常勤換算)	67.7 人	7.5 人	11.4 人	132 人	6 人
事業名	地域包括	介護タクシー	介護予防	配食	合計
利用定員	人	人	人	人	人
利用者延数	12,633 件	1,349 人	724 人	4,983 人	人
一日平均利用者数	49.7 人	5.3 人	人	人	人
稼働率・稼働指数	%	%	%	%	%
稼働日数	245 日	254 日	日	日	日
単価 (一日一人当り)	円	1,412 円	円	円	円
介護保険事業収入 (千円)	34,668	1,638	7,848	3,830	688,117
職員数(常勤換算)	6 人	1 人	1.5 人	1 人	115.3 人

C. 資金収支、財務状況

1. 資金収支予算達成状況

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	704,797	688,117	627,009	619,907	77,788	68,210
施設整備による収支	0	0	65,110	63,930	△65,110	△63,930
その他活動による収支	500	351	12,202	4,615	△11,702	△4,263
当期資金収支	—	—	—	—	976	16

☆事業活動収支について

収支差額が当初予算より 9,600,000 円減となった要因として、当初予算に比べ収入が 16,680,000 円減となった。入居者の入院日数が 216 日と多かったこと、また要支援者の総合事業への移行による単価の減少、訪問事業の利用者が施設等へ入所したことにより、利用数が減少したことが影響した。支出は 7,080,000 円減となったが、施設サーバー及び特養ケア記録システムの導入時期が年度末にずれ込んだことによる賃借料の減少、また、特養の家電用品等を購入見込みであったが、修繕で対応したことによる消耗器具備品費の減少によるものである。

2. 設備投資及び積立の状況

- 1) 施設サーバーの入替 3,667,680 円 (リース契約)
- 2) 介護日誌ソフトの導入 3,389,040 円 (リース契約)
- 3) デイ送迎車両については次回車検時に購入することとした
- 4) リクライニング式シャワーキャリー 383,400 円、シャワーストレッチャー 369,360 円、介護リフトは製品および業者選定中、車イス体重計は通常の体重計を購入後、職員が手を加え製作した
- 5) ヒムプレイヤーについては劣化があるが、普段支障ないため買い替えせず使用している
- 6) 消防設備改修工事 108,000 円

積立は無い

3. 借入金及び借入金償還の状況

設備資金借入金元金償還：63,060,000 円 利子：10,808,002 円

借入金年度末残高：819,800,000 円 新規借入金は無し

III. 対処すべき課題

1. 将来の修繕費、人件費などに対応するため、引き続き運営、経営の健全化に取り組む。
2. 利用者の安全で快適な生活及び職場環境を整えるため、リスクマネジメントに取り組む。
3. 職員間で良好なコミュニケーションが継続的に取れるよう、辞めない職場作りに取り組む。
4. 地域包括ケアシステムを推進させるため、「対島地域ふるさと協議会」と連携し、地域のニーズに応えられるよう地域住民などと協働していく必要がある。

IV. 利用者の状況

施設名 伊豆高原十字の園

1. 施設利用の状況

区分	2017年	2016年
入居者数	男 18人	19人
	女 71人	70人
	計 89人	89人
利用日数	男 6895日	6015日
	女 25768日	25873日
	計 32663日	31888日
平均入居期間	男 2年8ヶ月	3年7ヶ月
	女 3年8ヶ月	3年7ヶ月
	計 3年6ヶ月	3年7ヶ月
最長入居期間	男 6年9ヶ月	7年5ヶ月
	女 23年0ヶ月	22年0ヶ月

区分	2017年	2016年
平均年齢	男 80.8歳	81.4歳
	女 89.0歳	88.4歳
	計 87.3歳	87.0歳
最高年齢	男 99歳	98歳
	女 100歳	102歳
最低年齢	男 66歳	65歳
	女 73歳	71歳
出身地域	圏内 81人	86人
	圏外 6人	3人
	県外 2人	3人
平均介護度	4.0	4.0

区分	2017年	2016年
新入居者数	男 7人	9人
	女 20人	17人
	計 27人	28人
退居者数	男 7人	5人
	女 19人	17人
	計 26人	22人
入院者数	男 1人	6人
	女 7人	7人
	計 8人	13人
入院日数	男 18日	136日
	女 198日	90日
	計 216日	226日

入居者の介護度区分

区分	2017年	2016年
自立	0人	0人
要支援	0人	0人
要介護度1	3人	2人
要介護度2	7人	4人
要介護度3	26人	21人
要介護度4	19人	26人
要介護度5	35人	39人

入居前住居

区分	2017年	2016年
自宅	4人	6人
病院	0人	0人
老健施設	16人	20人
療養型	0人	0人
グループホーム	3人	0人
他施設	4人	0人

退居者内訳

区分	2017年	2016年
死亡	25人	20人
帰宅	0人	0人
病院へ転	1人	1人
他施設へ転出	0人	1人
その他	0人	0人

2. 在宅サービスの状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2017年度	2016年度
短期入所生活介護事業	利用延人数	268	280	272	295	303	276	327	293	293	286	289	291	3,473人	3,482人
	平均人数	9	9	9	10	10	9	11	10	9	9	10	9	9.5人	9.5人
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	365日
通所介護事業(一般型)	利用延人数	648	641	579	613	614	609	616	606	632	547	565	565	7,235人	7,327人
	月平均人数	26	24	22	24	23	23	24	23	24	23	24	21	23.3人	24人
	開所日数	25	27	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310日	309日
訪問介護事業	訪問回数	1416	1463	1596	1546	1676	1450	1480	1463	1459	1412	1365	1451	17,777回	19,850回
	訪問延時	1500	1538	1604	1587	1640	1497	1490	1428	1399	1337	1328	1485	17,833時	20,291時
地域包括支援センター事業	相談人数	457	470	478	528	535	558	522	622	700	597	575	693	6,735人	5,156人
	相談件数	884	935	770	948	976	1019	1007	1205	1330	1109	1080	1370	12,633件	8,818件
	予防計画件数	228	218	225	223	234	172	242	258	247	238	206	245	2,736件	2,691件
居宅介護支援事業	作成件数	216	211	228	224	221	219	236	226	225	228	220	220	2,682件	2,192件
身障訪問介護事業	訪問回数	14	14	14	14	14	15	15	15	15	15	15	15	175回	177回
配食サービス	食数	427	451	437	404	437	394	416	425	426	386	367	413	4,983食	6,002食
介護タクシー	輸送回数	121	111	106	116	116	109	113	103	96	97	118	143	1,349回	1,554回

V 職員の状況

職種	配置		男		女		就職		退職		比較増減		
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
施設長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
事務員	4	2	2	1	2	1	0	0	1	0	(1)	0	
相談員	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
介護支援専門員	2	0	1	0	1	0	0	0	1	0	(1)	0	
直接処遇職員	生活支援員	0	0								0	0	
	介護職員	40	9	17	1	23	8	4	3	6	5	(2)	(2)
	看護職員	3	1	0	0	3	1	0	1	0	0	0	1
	機能訓練職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄養士	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
調理師・員	4	8	3	3	1	5	1	1	0	0	0	1	
医師	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	8	0	4	0	4	0	1	0	0	0	1	
小計	56	30	25	11	31	19	5	6	8	5	(3)	1	
在宅事業	通所事業等	5	7	1	2	4	5	0	2	1	6	(1)	(4)
	訪問介護	6	26	1	0	5	26	1	4	0	5	1	(1)
	居宅支援	6	0	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0
	地域包括	6	0	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0
	介護予防	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
小計	24	34	4	2	20	32	1	6	1	11	0	(5)	
合計	80	64	29	13	51	51	6	12	9	16	(3)	-4	

*現員は2018年3月31日現在
就退職は2017年度内増減

VI 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
役員	0件	0円
職員	0件	0円
業者	0件	0円
入居者	0件	0円
入居者家族	1件	30,000円
遺族	4件	260,000円
在宅	0件	0円
一般	25件	229,147円
合計	30件	519,147円
その他寄付金収入		
寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

軽費老人ホーム（ケアハウス）アドナイ館 2017年度事業報告書

I. 基本理念

A. 理念の継承、精神的基盤について

1. 法人の理念である「夕暮れになっても光がある」の聖句を掲げ、定款で第1条に掲げるキリスト教の精神に立って、ケアハウス、デイサービス利用者の尊厳を保持しつつ、総合的なサービスの提供が出来るように創意工夫を行い、自立した生活が地域で営むことが出来るように支援を行った。
2. ケアハウス、デイサービス利用者へのサービス提供の理念の具現化に務めた。
* キリスト教の理解と理念の浸透を図る為、4月職員勉強会で理事長講話、毎月職員全体会を礼拝（奨励：聖隷三方原病院佐藤志伸チャプレン）から始めた。

B. 運営方針について

1. ケアハウス：入居者が自分らしい生活を出来るだけ長く「安心、安全」で暮らし続けるように支援を行った。情報共有、防災訓練（職員のAED講習）
2. デイサービス：利用者の在宅生活を見据えたサービス内容の提供に努め、利用者・家族の支援を行った。デイ便りの発行。第6回目の家族会を開催。
3. 研修：職員の資質向上を目指し、個別研修計画書を作成し目的を持って自己学習に取り組んだ。職員勉強会で聖隷三方原病院看護師を招き感染症の勉強を行った。
4. 西部地区3施設の一体的な取組み、経営管理委員会（毎月）、課長会議（毎月）、防災委員会（隔月）、3施設総合防災訓練を実施。地域連携として、ボランティア第6回懇談会、第7回聖隷クリストファーこども園等との交流を行った。

II. 事業計画の達成状況

A. 各事業の目標達成状況

1. ケアハウス部門：
 - ① 居室エアコン5台更新、平成18年から進めていた整備が終了。給湯器、網戸、居室戸車、換気扇等の不具合、パブリックスペースのカーテン整備を行った。
 - ② 入居者の日常の変化等を記録、個人ファイルの整備を行い支援に活かした。
 - ③ 事務所の備品の整備を行い、無駄のない効率的な備品管理に努めた。
2. 調理部門：
 - ① 目標として、毎月3～5品の新メニュー導入を掲げ、実施した。
 - ② 献立の改善、利用者からの要望がある場合、個別に対応を行った。
 - ③ 新しい洗剤や、殺菌剤の見直しを行った。展示会等に参加し情報収集に努めた。
3. デイサービス部門：
 - ① 記録・利用者用連絡ノートの電子化に取り組むが、システム化の導入に戸惑い、全員が操作する環境に至らなかった。
 - ② 家族会実施。歯科衛生士による口腔体操。家族に昼食を食していただき食事の重要性を認識していただく。家族の要望・相談を行事に反映させた。

③ 職場内の多職種連携を深め、介護度の重い方も積極的に受け入れた。

B. 利用実績

	ケアハウス	通所介護	合計
利用定員	50名	30名	
1日平均利用者数	50名	23.7名	
稼働率、稼働指数	100.0%	78.9%	
稼働日数	365日	308日	
単価（一人一日当たり）	4,973円	9,372円	
収入（千円）	老人福祉事業収入 90,759千円	介護保険事業収入 68,327千円	事業活動収入計 163,711千円
職員数（常勤換算）	11.0人	12.0人	23.0人

C. 資金収支、財務状況、

1. 資金収支予算達成状況

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	163,301	163,710	158,767	153,492	4,534	10,218
施設整備による収支	0	0	7,572	7,832	△7,572	△7,832
その他活動による収支	6,550	9,756	3,419	3,358	3,131	6,397
当期資金収支	—	—	—	—	93	8,782

事業活動による収支：収入は、ほぼ予定通りの収入だった。

支出は、非常勤職員減、給食在庫管理徹底、デイサービス浴室工事延期により予算に対し5,684千円増額収支差額。

施設整備による収支：固定資産給湯器増により予算に対し△261千円増額収支差額。

その他活動による収支：長期預り金積立資産取崩収入が、予定より多く6名退居者により予算に対し3,266千円増額収支差額。

当期資金収支：当初予算対し8,689千円増額の実績だった。

2. 設備投資及び積立資産の状況

- ・器具及び備品取得：食器の補充と更新。冷蔵庫（コールドテーブル）購入。予定外で、キャラバン（車椅子仕様）劣化により、メンテナンス・リースにてレジアス（車椅子仕様）に更新。
- ・建物取得・修理費：ロビー、集会室、デイフロアのカーテン取替工事実施。デイサービス浴室改修工事の延期。受水層補修の延期。
- ・積立累計：修繕費積立資産3,000千円

3. 借入金及び借入金償還の状況

- ・元金償還6,000千円、利子376千円、今年度償還。年度末残高30,000千円。

III. 対処すべき課題

1. デイ浴室改修工事
2. 2階大型乾燥機（デイ用）の移動等
3. ボイラー設備の更新
4. 受水槽の補修

IV利用者の状況(2017年度)

施設名 アドナイ館

アドナイ館

1.施設利用の状況

区分		2017年	2016年
入居者数	男	12人	11人
	女	38人	39人
	計	50人	50人
利用日数	男	4,016日	4,015日
	女	14,204日	14,235日
	計	18,220日	18,250日
平均入居期間	男	6.7年	7.1年
	女	9.5年	11.8年
	計	8.9年	9.1年
最長入居期間	男	25年	24年
	女	25年	24年

区分		2017年	2016年
平均年齢	男	78.7歳	81.4歳
	女	82.7歳	82.5歳
	計	81.8歳	81.9歳
最高年齢	男	92歳	91歳
	女	96歳	95歳
最低年齢	男	46歳	70歳
	女	68歳	68歳
出身地域	圏内	34人	35人
	圏外	8人	7人
	県外	8人	8人
平均介護度		1.6	1.8

区分		2017年	2016年
新入居者数	男	2人	1人
	女	4人	3人
	計	6人	4人
退居者数	男	1人	1人
	女	4人	3人
	計	5人	4人
入院者数	男	3人	2人
	女	8人	10人
	計	11人	12人
入院日数	男	53日	63日
	女	280日	195日
	計	333日	258日

入居者の介護度区分

区分	2017年	2016年
自立	28人	27人
要支援	9人	9人
要介護度1	8人	9人
要介護度2	2人	2人
要介護度3	3人	2人
要介護度4	0人	1人
要介護度5	0人	0人

入居前住居

区分	2017年	2016年
自宅	4人	2人
病院	0人	1人
老健施設	0人	0人
療養型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他施設	2人	1人

退居者内訳

区分	2017年	2016年
死亡	0人	1人
帰宅	0人	0人
病院へ転出	0人	0人
他施設へ転出	5人	3人
その他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2017年度	2016年度
		通所介護事業(一般型)	利用延人数	569	626	622	647	652	626	617	602	598	574	557	600
	月平均人数	22.8	23.2	23.9	24.9	24.2	25	23.7	23.2	23.9	23.9	23.2	22.2	23.7人	21.4人
	開所日数	25	27	26	26	27	25	26	26	25	24	24	27	308日	309日

V職員の状況

職種	配置		男		女		就職		退職		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	増加	減少
施設長	1		1									
事務員	1				1							
相談員	1				1							
介護支援専門員												
直接処遇職員	生活支援員											
	介護職員	1	2			1	2	1	1		0	0
	看護職員											
	機能訓練職員											
栄養士	1		1									
調理師・員	4	2	1	0	3	2	0	0	0	0	0	
医師												
その他		3		3				1			1	
小計	9	7	3	3	6	4	1	1	1	0	1	0
在宅事業	通所事業等	7	9	3	3	4	6	2	1	3	0	0
	訪問介護											
	居宅支援											
小計	7	9	3	3	3	9	2	2	1	0	0	0
合計	16	16	6	6	9	13	3	3	2	0	1	0

VI寄付金収入

区分	件数	寄付金額
役員	0件	0円
職員	6件	175,000円
業者	0件	0円
入居者	29件	563,000円
入居者家族	0件	0円
遺族	0件	0円
在宅	0件	0円
一般	29件	275,000円
合計	64件	1,013,000円
その他寄付金収入		
寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

*現員は2018年3月31日

就退職は2017年度内増

特別養護老人ホーム 松崎十字の園 2017 年度事業報告書

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

法人に明確な理念に基づく行動規範がない中で、職員には、「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」という理念を今あるべき姿、成すべき行動への問い掛けとして心に常に留める事が出来るように礼拝や採用時のオリエンテーションで伝える事を心がけて来た。また松崎教会・下田教会の牧師もキリスト教福祉に関わるメッセージを礼拝で伝えている。礼拝の参加職員数は 10 人不足であるが業務に支障がない時などは、参加に心がけてくれている。施設運営会議、主任会議では、聖書の朗読、祈りを持って始めている。年度末には平井理事長が作成した日々の聖句の目めくりカレンダーを職員の目の届く所へ掲げ、聖書に親しむ事が出来る様にした。

B. 運営方針について

中期計画テーマとして「みんなが笑っていただける施設を目指します。」を掲げているが利用者においては、職員の利用者への行事や支援の中で笑い声のある施設であったかと思う。しかし、高齢者施設で 23 名、障がい施設で 1 名が天に召される事があり、笑だけの施設でなく、終の住処である事を日々心がけて置く大切さを感じている。

職員においては、新しい職員の採用が難しい環境になり、退職者や傷病・産休育児での休業者が重なる中で人手不足感があり、業務を行うに当たっての厳しさが出て来ている。

働きやすい施設（2017 年度テーマ）

働きやすい施設とは、安心・安全が担保され、職員に肉体的精神的負担が少なく、働き甲斐のある施設つまり努力に対する評価、無駄な残業がなく、パワハラ・セクハラがなく、福利厚生があり、人を育てる環境がある風通しが良い施設の事を言うのだろうが、まず始めに松崎十字の園では、15 年を経過する老朽化した建物の改善と職場の設備環境を整える事から着手した。空調設備の不調や屋根からの雨漏りがあり省エネ設備の補助金を活用し、それらの改修を行った。また利用者のベッドも極低床ベッドの導入をし始め、ベッドからの転落不安の解消につながることが出来た。電話・コール設備の入れ替え工事を行った。今後は、建物・設備の洗い出しを行い、優先順位を付け、中長期計画の中で改善を行いたい。また働き甲斐のある職場環境は、法人全体の事として提言を行い、改善を進めて行きたい。

① 育てる力をつけます。

- ・業務を行う中で育てる仕組みを再構築します。

施設長が仕組みを再構築に対する明確なビジョンを打ち出さずいたため、次年度への持越しとなっている。業務の標準化、研修計画・方法、評価を明確にしていきたい。

- ・職員個人の自己研修目標を自らが立案し、目標へ向かわせます。

全職員に対して目標を立てさせる事はできなかったが、課題のある者の職員面接の中で、自己目標を持たせる指導を行い、質の向上に繋げた。また外部の研修として Web 動画による研修方法を取り入れたが動画での学びに慣れていない所もあり、環境を整える必要を感じた。ただ介護福祉士を目指す職員がいて、その者の希望でその関連動画を見られるようにし、受験に備えた結果、合格する事が出来た。

② 安心安全な運営を目指します。

- ・建物・設備の状況確認と安全確保を行います。

省エネ工事・電話コール設備などの大規模な改修を行った為、建物・設備の状況確認まで手が回らず実施しなかった。

③ 健全な経営を考えます。

- ・事業の数値目標を意識したサービスを提供します。

高齢者施設では、23 名の召天者があった中で退所から次の入所までの間をなるべく短くなるよう

に努力した。(平均 4.6 日) 在宅サービスについては、居宅介護支援事業所との連携で事業を進めて来ており、そのニーズに応える形で業務を進めてきたため、数値目標を意識しつつも業務の忙しさもあり、それを上げて行く事業の紹介活動や宣伝等の積極的な活動は少なかった。介護報酬等の請求は、月初めにそれぞれの担当が担い、滞りなく行われて利用料の未収等も日々管理している。

- ・職員数と業務量も関係するので掲げた目標には、届いていない。

④ 経営意識を高めます。

主任会議ではサービス単位の月次の提示を必要に応じて行っていたが、収支を見るに留まり、それを分析するまでに至らず、施設長の技量のなさで主任達への意識付けが出来なかった。

⑤ 利用者の生活を丁寧に支援します。

・利用者の個別支援計画の充実を図ります。

丁寧な支援という言葉の曖昧さ中で職員たちは、利用者や家族の思いを聴き、それを受け止め、個別支援計画に反映し、自宅訪問、買い物、気分転換、食事提供を実行してきた。家族の意向により施設の嘱託医でなく他の病院受診についても、家族に関わって受診はして頂いているもののその後には、その病院と連携を取って対応をしている。食事等については、健康状態を考え、就労支援事業所にも提供している。利用者の嚥下機能の変化に応じて、介護の方で刻みを加え、給食では、調整食などを用意し、即応性のある提供をしている。

身体拘束や虐待については、その為の研修等を行い、毎月の会議でそれらの有無の確認や情報の提供をおこなっている。丁寧さに欠ける部分では、言葉使い(スピーチロック)に課題があり、それは良いも悪いも職員と利用者との距離感が近くなっている事で生じる事が多く、意識付けの必要性がある。

II. 事業計画の達成状況

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. 介護老人福祉施設 松崎十字の園

(1) 介護

①笑顔、言葉使い、チームワークの3本柱を中心に基本的な介護のあり方を見直していく。

基本的な介護の見直しとしてマニュアルの確認、新人指導についての確認、その他業務、書類等を確認したが統一されていない事が多くあることを確認し、次年度の課題とした。実行できたものとして、入浴、清拭の実施について、不調者や職員不足の時の対応の明確なルールを作りや認知症介護についての基本を学ぶために、認知症介護実践研修修了者による勉強会をユニット会議の中で一年を通して取り組んできた。また、職員の評価と面談を実施し、個々の課題を確認した。

②業務のしやすい環境を職員自らが考えて実践していく。

会議や面接にて働きやすい環境について個々の職員へ意見を求め結果、多くの意見は施設の老朽化や経年劣化に伴う設備、備品(風呂、ベットキャスター、水回り関係、車椅子)についてであった。解決のためのプロセスが介護現場と施設の組織としてうまく機能していない点も分かり次年度の課題とした。

③食事等の際、利用者を車椅子から椅子への移乗を徹底する。

ユマニチュードの“見る、話す、触れる 立たせる”の実践の一環として、椅子に座ることを切り口に、勉強会を行った後に一年を通して取り組んだ。基本的な考え方としては今まで行ってきた介護と大きく変わることはなく、椅子に座らせることが目的ではないという事に職員は気づき、普段の介護場面でユマニチュードの手法を意識して介護にあたる事が出来た。椅子に限って言えば、椅子に座っていなかった利用者へ、椅子に座った生活の提案をし、座ることが良いか悪いかを考える機会が出来た。一概に座ることが良いわけではなく、自由に車椅子で動いていた方が、食後、職員が車椅子へ移乗しないと動けなく生活環境が低下する弊害にも気づきがあった。

(2) 看護

①医療的リスクのある利用者について介護職員と共に支えていく。

介護度3以上の入所となって医療的リスクの高い方が増え、入所してからの在園日数が短くなっている中で病を持ちながら生活を持続させていくケースが増えている。そのため介護職員とカンファレンスをその都度行い、連携を取りながら支援をおこなった。また家族に対しても入所時のカンファレンスや家族会、体調悪化時・受診時などにその都度説明や確認している。

②重度化・感染症について研修会を持つと共に認知症の型について特徴や対応の方法について学ぶ。

感染症が広がり出す前に感染性胃腸炎やインフルエンザの勉強会を行い、それらの対応について学んだ。それぞれの季節で罹患はあったが流行拡大にはならなかった。認知症については、アルツハイマー型や脳血管性の対応では介助も難しくなっている為、レビー小体型、前頭側頭型、ピック型の勉強を多職種と行った。

(3) 相談員

①地域に働き掛けボランティアなど施設に関わる人たちを増やし風通しのよい環境を作る。

松崎町役場の福祉課の担当者が変わる中の変更等があり、広域的に施設を知っていただけるような働きはできなかった。

②ADLの維持を図る為、個別の機能訓練を充実させる。

個別の訓練計画を立て訓練内容で行ったほか、集団の体操や個別のROMの訓練等を行ったが一部の利用者に加齢の要因が大きく機能の低下がみられる利用者がいた。

(4) 施設介護支援専門員

①利用者・家族の望みを受け止めつつ、重度化予防を見据えた会議・ケアプランの作成に努める。

家族の思いを聴こう会議に参加を求めたが参加される家族は殆どいなかった。6ヶ月を目安として担当者会議を開催し、転倒リスクの高い方や慢性疾患等への対応について議題として取り上げ、支援の検討を行った。

②介護職員と共に行事へ参加や地域に出る機会を増やし、施設内だけで完結した生活にならないようにする。

行事・外出の機会があれば、可能な限り実施出来るように介護職員と連携を取りながら取り組んだ。

③状態の変化が見られた際は、多職種と連携し、統一した支援が出来るように速やかに会議を開く。

他職種との連携した会議は開けなかったが、各ユニットリーダー・他職種と随時意見交換を行い状態変化に対応した。それでも、報告・連絡・相談が不十分な場面も見られた。

(5) 給食

①食中毒の防止に努める。外部研修に参加し、施設内の勉強会を積極的に開催する。

外部の衛生講習に参加し、給食職員対象と施設職員対象に勉強会も行い保健所の監査での指摘事項も改善につとめ、食中毒を出すことなく仕事を続ける事が出来た。外部研修は保健所主催の衛生講習や企業主催のセミナーに参加し、知識を深めた。食中毒に関する勉強会(給食会議内・施設全体)を2回、調整食の試食会(施設全体)を1回、とろみの勉強会(施設全体)を1回行った。

②法人の「おいしいプロジェクト」に参加し技術や知識を高めていく。

栄養士1名調理師1名で毎回参加し、その都度給食会議にて他職員に伝達講習を行った。

(6) 事務

①将来の会計処理の一括集中化に向けて処理業務の統一を図る。

伊豆半島にある3施設の事務統合を計画しているが統一は、図られていない。

②監査法人の監査に対応できるように事務体制を構築する。

伊ワサキ会計からの巡視指導を受けつつ、監査法人の監査もありその都度会計処理等の疑問点などに示唆を貰い、事務処理に反映してきた。ただ監査法人の監査に対応できるように事務体制の構築までには至らず、法人本部との指導の下で行っていきたい。

2. 短期入所生活介護事業

①利用の受け入れから退所まで丁寧な対応を行っていく。

利用前日に家族に連絡し、本人の状況や変更点を確認し、利用期間中、本人が体調に変化(体調不良も含む)があった場合などの場合、家族やケアマネに連絡をして病院受診等、早めの対応を行った。転倒等の事故発生時も、今後について職員間で話し合い、担当者会議やご家族に確認して事故予防に対応した。

3. 通所介護事業

① 特色のあるデイサービスを考えて地域に発信をする。

認知症の進行予防と体力維持に重点をおき、テストや数値化できる体力測定を取り入れ各利用者の現状を把握し、個別のプログラム作成実行を計画したが、測定のみで終わってしまった。午前中の時間で行う予定だったが、入浴の手が回らず、人員を入れることができなかった。2018年度も引き続き各人に合わせた個別プログラムの作成し実行していきたい。

②稼働率80%を目指す。

2017年度平均稼働率…70.0%。新規受け入れはおこない9月10月は78%の稼働率になったが、11月に入院や利用終了者が相次ぎ数値が下がってしまった。2月、3月は74%台と多少の持ち直しをみせている。

4. 訪問介護事業

①他事業所・関係機関と密に連携し、地域の利用者が在宅での生活を豊かに送れるように支援をする。

毎月末に『利用状況報告書』を欠かさず、ケアマネージャーに報告提出し、密に連絡を取り、それ以外には電話やメールにて連携を取り合った。自宅対応できない洗濯を預かりコインランドリーで洗濯し、自宅での生活に支障のないように支援を行い、利用者の清潔保持の支援を行ったりしている。

5. 居宅介護支援事業

① 在宅部門全体の利用向上が図れるように在宅部門の連携の中心となる。

デイサービス、ヘルパー、短期入所との連携はとれているが、それはあくまでもケアマネとしての連携であり、ヘルパーや短期入所に関しては相談に乗る程度になってしまった。

② 新規の利用者の獲得に努める。

2018年3月時点で契約者が20名。平均すると1か月1名程度の新規利用者となる。2018年に入ってから1ヶ月に2名程度の申し込みがあり、新規利用者の数は伸びている。

6. 大規模修繕工事

①省エネ補助金を活用し、空調、照明等の工事を行う。

省エネ工事として空調機器の更新、照明のLED化、ガラスのペアガラス化、屋上防水断熱化、給湯機器の更新を補助金活用で行った。工事後は、リース料の返済のために光熱水費の節約を行い、パルコスモの空調の温度管理システムの導入によって無駄な運転を制御できるようにすることが必要となる。

B. 利用実績（松崎十字の園）

	特養	短期	通所
利用定員	50人	9人	25人
利用者延べ数	17,583人	4,015人	4,479人
一日平均利用者数	48.1人	11.0人	17.5人
稼働率・稼働指数	96.3%	122.2%	69.9%
稼働日数(日)	365	365	256
単価（一人一日当たり）	11,749円	11,264円	10,006円
介護保険事業収入（千円）	206,596	45,228	44,821
職員数(常勤換算)	29人		6人

	訪問	居宅	事業活動収入 職員数 合計
利用定員	——	——	——
利用者延べ数	1993.5時間	107件	——
一日平均利用者数	5.5時間	——	——
稼働率・稼働指数	——	——	——
稼働日数	——	——	——
単価（一人一日当たり）	4,351円/時	11,205円/件	——
介護保険事業収入（千円）	8,657	1,199	312,432
職員数(常勤換算)	2.5人	1人	41人

C. 資金収支・財務状況

1. 資金収支予算達成状況

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	311,450	312,432	298,834	294,673	12,616	17,759
施設整備による収支	5,250	5,250	12,280	19,667	△7,030	△14,417
その他活動による収支	780	10,622	6,180	6,062	△5,400	4,560
当期資金収支	——	——	——	——	186	7,902

- ・事業活動収入は、予算に近い実績であり、事業活動支出は、人件費と事務費が予算を下回った。施設整備による収支では、省エネ空調工事によりファイナンスリースが膨らむ結果となった。その他活動による収支については、オリブからの繰入れを行い、予算を上回る結果となった。

2. 設備投資及び積立金の状況

- ・省エネ工事（161,701,920円リース総額）、電話コール設備（9,123,840円リース総額）、便洗機（896,400円）
- ・積立金 なし

3. 借入金及び借入金償還の状況

- ・新たな借入金はなし
- ・医療福祉機構：元金償還 11,250,000円 利子 956,250円 年度末残高 45,000,000円

III. 対処すべき課題

- ・人材確保：働きやすい環境を作り、今いる職員を大切にしつつ、事業継続のために必要な資格を持つ専門職の確保をする事。
- ・リスク：BCP事業継続計画に視点で人・物・金・情報を管理できる態勢を作る事。
- ・経営：リスクを意識し、利用者ニーズに合わせた事業の展開を考えていく事。

IV. 利用者の状況

施設名 松崎十字の園

1.施設利用の状況

区分	2017年	2016年
入居者数	男 10人	8人
	女 40人	42人
	計 50人	50人
利用日数	男 3,451日	2,863日
	女 14,692日	15,058日
	計 18,143日	17,921日
平均入居期間	男 9ヵ月	1年3ヶ月
	女 2年11ヵ月	3年0ヶ月
	計 2年6ヶ月	2年8ヶ月
最長入居期間	男 2年10ヵ月	2年7ヶ月
	女 15年11ヵ月	14年11ヶ月

区分	2017年	2016年
平均年齢	男 85.6歳	82.6歳
	女 86.4歳	86.1歳
	計 86.2歳	85.5歳
最高年齢	男 97歳	90歳
	女 98歳	100歳
最低年齢	男 71歳	75歳
	女 46歳	45歳
出身地域	圏内 48人	48人
	圏外 1人	1人
平均介護度	3.8	4.0

区分	2017年	2016年
新入居者数	男 10人	3人
	女 13人	12人
	計 23人	15人
退居者数	男 8人	3人
	女 15人	12人
入院者数	男 11人	4人
	女 23人	9人
入院日数	男 192日	99日
	女 332日	176日
計	524日	275日

入居者の介護度区分

区分	2017年	2016年
自立	0人	0人
要支援	0人	0人
要介護度1	0人	0人
要介護度2	0人	1人
要介護度3	20人	14人
要介護度4	19人	19人
要介護度5	11人	16人

入居前住居

区分	2017年	2016年
自宅	7人	5人
病院	3人	3人
老健施設	4人	3人
療養型	0人	0人
グループホーム	1人	0人
他施設	7人	4人

退居者内訳

区分	2017年	2016年
死亡	23人	15人
帰宅	0人	0人
病院へ転出	0人	0人
他施設へ転出	0人	0人
その他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2017年度	2016年度
短期入所生活介護事業	利用延人数	333	333	312	350	356	351	363	335	304	368	300	310	4,015人	4,023人
	平均人数	11.1	10.7	10.4	11.3	11.5	11.7	11.7	11.2	9.8	11.9	10.7	10.0	11人	11人
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365人	365日
通所介護事業(一般型)	利用延人数	337	374	349	361	391	410	426	354	349	344	374	410	4,479人	4,371人
	月平均人数	16.9	16.3	15.9	17.2	17.0	19.5	19.4	16.9	16.6	17.2	18.7	18.6	18人	16.9人
	開所日数	20	23	22	21	23	21	22	21	21	20	20	22	256日	259日
訪問介護事業	訪問回数	165	203	196	206	182	202	216	218	202	192	187	203	2,372人	1,943回
	訪問延時間	126.5	177.5	163.0	176.5	151.5	172.0	185.0	186.5	167.0	160.5	158.0	169.5	1,994時間	1,668.5時間
居宅介護支援事業(予防)	作成件数	5	6	7	6	7	8	8	8	10	10	12	14	101件	140件

V.職員の状況

職種	配置		男		女		就職		退職		移動		比較増減		
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
施設長	1		1										0	0	
事務員	2	1			2	1							0	0	
相談員	2		1		1								0	0	
介護支援専門員	1												0	0	
直接処遇職員	生活支援員													0	0
	介護職員	22	6	11		11	5	1		1			1	-1	
	看護職員	3	1			3	1							0	0
機能訓練職員	1		1										0	0	
栄養士	2				2								0	0	
調理師・員	2	5	1	1	1	4			1				-1	0	
医師		1		1									0	0	
その他	0	4	0	3	0	1	0	1	1				0	0	
小計	36	18	15	5	20	12	1	1	1	2	0	0	0	-1	
在宅事業	通所事業等	4	4	4		2	2	1	1	2			1	-1	
	訪問介護	2	1			2	1						0	0	
	居宅支援	1		1									0	0	
小計	7	5	5	0	4	2	1	1	0	2	0	0	1	-1	
合計	43	23	20	5	24	14	2	2	1	4	0	0	1	-2	

VI.寄付金収入

区分	件数	寄付金額
役員	0件	0円
職員	2件	5,860円
業者	0件	0円
入居者	0件	0円
入居者家族	1件	30,000円
遺族	7件	168,000円
在宅	0件	0円
一般	5件	220,000円
合計	15件	423,860円
その他寄付金収入		
寄付等雑収入	件数	寄付金額
寄付物品	0件	0円

* 現員は2018年度3月31日現在 ()は兼務 就退職は2017年度内増減 1名松崎町へ出向

障害者支援施設 オリブ 就労支援継続B型 ワークショップマナ 2017年度事業報告書

I. 総括

オリブ拠点の総括は、松崎十字の園拠点と一体で運営を行っており、松崎十字の園拠点の総括内容と同じものであるので割愛する

II. 事業目標（計画）の達成状況

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. 障害者支援施設 オリブ

(1) 支援

①生活介護の通所の利用者と施設利用者の交流を深める。

交流を考える前にまず、利用者一人一人の生活を豊かにすることを目指し、個別支援計画書を中心にお一人お一人の生活の見直し、どうしたいのかというニーズの把握に努め、個々の生活支援、楽しみ・生きがい・役割のある生活を共に考え生活していき、生活の質の向上に繋げることを考えた。その中で利用者自身が他の利用者との交わりというものをあまり望んでいないこともあり、また、施設利用者、通所利用者の障がい種別、障がい程度がさまざまである事などから交流を深める事までは出来なかった。ただニーズの把握をする中に、支援をする職員のルーチンワークが中心となりがちな支援の現状を利用者目線へ変える、自己選択・自己決定のできる生活へ変える、利用者中心の生活へ変える、ということの一步になり、次年度に繋がる一年になった

② 行事内容の充実を図り、利用者の生活に豊かを求める。

利用者の個々の要望で、外出・外食・買い物を中心に行い、施設から外へ出る(地域へ)ことを多く行った。その結果、地域のスーパー、ドラッグストア、コンビニ等で店員の対応が変わり、一人で外出しやすい環境が出来た。また、日中活動として、野菜作り、コメ作り等畑での作物作りを行い、収穫物から食事へのおかず作り、正月飾り作りへ発展させた。次年度としては、隣接地の畑を借用できたので作物作りを活動のメインにした支援を考えている。

(2) 看護

① 障がいや疾病の理解を深め、利用者の障害や疾病に応じた支援を行っていく。そのために情報等の共有を図り、研修等を行っていく。

オリブの入院は2名あり、疾患はイレウスSMA症候群と腹部の疾患である。2人の共通するところは、脳性麻痺あって年齢も40歳以上、自分で動くことが出来ない、常に介助が必要、体力、嚥下機能、排泄機能の低下が見られている。他の利用者の方にもそれは確実に表れている。これらの事を支援職員とその都度、資料及び勉強会開催し、退院に向けて情報確認の為に病院訪問を行い施設生活へ準備を行った。また、1人の方が健康診断にて結核の疑いあり、施設内隔離状況となったが疑いは晴れたが食中毒、インフルエンザ以外の感染性の疾病について研修をも行う必要性がある。

(3) 機能訓練

① 利用者の障害に応じた訓練内容を立案し個別に支援を実施していく。

個別の機能維持訓練の他、障がいと加齢に伴う機能低下という視点で生活環境の整備を実施した。

(4) 給食

- ① 利用者の疾病によっては、栄養管理等が必要な方がおられ、多職種と連携を取りながら栄養管理を行う。

イレウス等で入院となる利用者があり、退院後の食事内容を見直した。その後の経過で嘔下、排便等について、支援員、看護師から報告・相談・指示を受け、その都度対応をしている。

2. 身障短期入所事業

- ① 長期の利用される方が来られる事が予測される中、他の利用者の利用確保に努める。

年度2月までロングショートの方がおられ、他の利用者に対しては、空居室や社会復帰訓練室を利用して要望に応えた。

3. 障害者相談支援

- ① 相談支援専門員の質の向上に対して継続的に取り組む。

相談を受けた事例と過去の事例等を一つ一つ確認しながら対応をしている。賀茂圏域での相談支援員の質の向上のための研修会等に参加し、他の相談職員等からも情報を得て質の向上を目指している。また他事業所が受けたがらない相談等を受ける事で深く考える機会が与えられている。

- ② 障害児への対応に取り組み、そのための組織づくりを考える。

障害児への対応に取り組みは特別支援学校伊豆松崎分校主催の勉強会への参加や、参観会での講師依頼を受ける中で卒業後も家族からオリブでと話があり、計画相談に繋げ、ネットワーク作りの始まりとなった。ただ、オリブの相談支援としての組織化は、人員不足もあり、専門職の確保が求められる。

4. 障害者ヘルパー事業

- ① 障害者相談支援事業所等と密に連携し、在宅での生活が豊かに送れるように支援をする。

毎月末に『利用状況報告書』を欠かさず障害者相談支援へ報告提出し、関連機関と連携を取る中で利用増に結びつけた。化学物質過敏症の方への支援に対して訪問を通して、その方がヘルパーとの関わりを持つ事で孤立しがちな生活の豊かさに保つ事が出来たと思われる。

5. 就労継続支援B型事業所（ワークショップマナ）

- ① 利用者一人ひとりの性格や障害にあわせた就労支援のあり方を考えて日中の環境を整える。

パン工房の2名が退職し、2名が入職する。始めはパン作りの失敗もあったが今では利用者には指導をしつつ作業に取り組んでいる。陶芸も1名退職し、1名入職する中で、技術が必要とされる陶芸で現在職員2名体制とし、技術の向上に取り組ながら製品を作っている。ベテランが退職したことにより、製品を作るという工程に苦勞する一年でした。しかし、新しい職員の新鮮な目線があり、職員が利用者の顔を見て作業する、利用者が主体であるという意識は生まれてきている。次年度は利用者の出来ないことを無くすのではなく、利用者の出来ることをもっともっと増やし伸ばしていきたい。

- ② 食事・運動・口腔ケアなど健康管理に家族を入れながら取り組む。

家族会にて看護と栄養を交えての健康についての勉強会を行なった。また、口腔ケアと手洗いの勉強会も家族に向けに行ない一定の効果は得られた。今年度より毎月の体重測定も実施し、職員も体重の変化を把握し、利用者に対しての助言が出来るようになった。運動は昼休みに継続して行ない、グラウンドを活用することで以前よりダイナミックな運動等が出来ている。

B. 利用実績（オリブ）

	施設支援生活介護	生活介護	短期	訪問
利用定員	22人	27人	2人	—
利用者延べ数	7,816人	5,919人	779人	503.4時間
一日平均利用者数	21.4	22.7	2.13	1.4時間
稼働率・稼働指数	97.3%	84.3%	106%	—
稼働日数	365日	260日	365日	365日
単価（一人一日当たり）	6,019円	10,921円	10,521円	3,057円
障害福祉サービス収入	47,045千円	64,645千円	8,196千円	1,539千円
職員数(常勤換算)	11.0人			2.5人(兼務)

	相談	就労支援	事業活動収入 職員数 合計
利用定員	—	20人	—
利用者延べ数	1,772件	5,528人	—
一日平均利用者数	—	21.8	—
稼働率・稼働指数	—	109.2%	—
稼働日数	—	253日	—
単価（一人一日当たり）	6,316円	10,314円	—
障害福祉サービス収入	10,877千円	57,017千円	190,252千円
職員数(常勤換算)	1.9人	8.5人	22.8人

C. 資金収支・財務状況

1 資金収支予算達成状況

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	186,511	190,252	181,279	166,792	5,232	23,460
施設整備による収支	1,750	1,750	4,160	4,993	△2,410	△3,243
その他活動による収支	300	215	3,000	13,495	△2,700	△13,280
当期資金収支	—	—	—	—	122	6,937

- ・事業活動収入は、在宅事業の伸びにより予算を上回った。
- ・事業活動支出は、人件費が予算を下回った。
- ・その他活動による収支は、松崎拠点へ繰入れをした為、予算を超えるマイナスとなった。

2 設備投資及び積立金の状況

- ・設備投資 オリブ：なし マナ：送迎車輛（728,740円）、 耕運機（150,152円）
- ・積立金の状況： なし

3 借入金及び借入金償還の状況

- ・新規の借入金はなし
- ・医療福祉機構：元金償還 2,750,000円 利子 233,750円 年度末残高 11,000,000円

III. 対処すべき課題

- ・人材確保：働きやすい環境を作り、今いる職員を大切にしつつ、事業継続のために必要な資格を持つ専門職の確保をする事。
- ・リスク：BCP事業継続計画に視点で人・物・金・情報を管理する態勢を作る事。
- ・経営：リスクを意識し、利用者ニーズに合わせた事業の展開を考えていく事。

IV. 利用者の状況

施設名 オリブ

1. 施設利用の状況

区分		2017年	2016年
入居者数	男	12人	11人
	女	10人	11人
	計	22人	22人
利用日数	男	4,290日	3,922日
	女	3,536日	3,977日
	計	7,826日	7,899日
平均入居期間	男	9年11ヵ月	9年9ヵ月
	女	10年5ヵ月	9年10ヵ月
	計	10年2ヵ月	9年10ヵ月
最長入居期間	男	16年	15年
	女	16年	15年

区分		2017年	2016年
平均年齢	男	53.2歳	53.1歳
	女	52.3歳	52.1歳
	計	52.8歳	52.7歳
最高年齢	男	76歳	75歳
	女	67歳	66歳
最低年齢	男	31歳	30歳
	女	40歳	39歳
出身地域	圏内	21人	21人
	圏外 県外	1人 0人	1人 0人
平均区分		5.18	5.18

区分		2017年	2016年
新入居者数	男	1人	0人
	女	0人	0人
	計	1人	0人
退居者数	男	0人	0人
	女	1人	0人
入院者数	男	2人	1人
	女	2人	0人
入院日数	計	4人	1人
	男	52日	19日
	女	78日	0日
計	130日	19日	

入居者の障害程度区分

区分	2017年	2016年
障害程度区分1	0人	0人
障害程度区分2	0人	0人
50歳未満障害程度区分3	0人	0人
50歳以上障害程度区分3	0人	0人
障害程度区分4	6人	6人
障害程度区分5	6人	6人
障害程度区分6	10人	10人

入居前住居

区分	2017年	2016年
自宅	1人	0人
病院	0人	0人
老健施設	0人	0人
療養型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他施設	0人	0人

退居者内訳

区分	2017年	2016年
死亡	1人	0人
帰宅	0人	0人
病院へ転出	0人	0人
他施設へ転出	0人	0人
その他	0人	0人

2. 在宅サービスの状況

事業名	区分	2017年												2016年	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2017年	2016年
短期入所生活介護事業	利用延人数	45	61	67	78	82	75	69	81	55	50	53	63	779人	710人
	平均人数	1.5	2.0	2.2	2.5	2.6	2.5	2.2	2.7	1.8	1.6	1.9	2.0	2.1人	1.9人
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	365日
生活介護	利用延人数	412	460	460	440	478	435	436	448	451	473	419	462	5,374人	5,971人
	平均人数	20.6	20.0	21.9	21.0	20.8	19.8	19.8	20.4	21.5	20.6	21.0	21.0	20.7人	22.7人
	開所日数	20	23	21	21	23	22	22	22	21	23	20	22	260日	263日
訪問介護事業	訪問回数	30	34	33	36	40	37	37	51	51	48	47	51	495回	395回
	訪問延時間	31	34	33.5	36	40	37.5	33.5	51	52.5	50	49.5	55	503.5時間	405.0時間
身体障害者相談事業	利用件数	152	148	148	123	103	104	151	157	153	113	170	200	1,722件	1,439件
ワークショップマナ	利用人数	464	465	490	463	465	449	454	426	458	450	451	493	5,528人	5,235人
	開所日数	21	21	22	21	22	21	20	20	22	21	20	22	253日	252日

V. 職員の状況

職種	配置		男		女		就職		退職		移動		比較増減		
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
施設長	(1)												0	0	
事務員	(2)	(2)	(1)		(2)	(1)							0	0	
サービス管理責任者	1		1										0	0	
直接処遇職員	生活支援員	7	2	3		4	2	1	1				-1	1	
	看護職員	1				1							0	0	
	機能訓練職員	1		1									0	0	
栄養士	1				1		1	1					0	0	
調理師・員	(2)	(5)	(1)	(1)	(1)	(4)		(1)					0	0	
医師		(1)		(1)									0	0	
その他		(4)		(3)		(1)	(1)	(1)					0	0	
小計	11(5)	2(12)	5(2)	(4)	6(3)	2(6)	1	1(1)	2(1)	(1)			(-1)	1	
在宅事業	相談支援事業	1(1)	1	(1)		1	1								
	ワークショップマナ	8(1)		5	1	3	0	3	1	2					
	訪問介護	(2)	(1)			(2)	(1)								
小計	9(4)	1(1)	5(1)	1	4(2)	1(1)	3	1	2				2	-2	
合計	20(9)	3(11)	10(3)	1(4)	11(5)	3(7)	4	1(1)	3(1)	2(1)			(-1)	1	

*現員は2018年度3月31日現在 ()は兼務 就退職は2017年度内増減

VI. 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
役員	0件	0円
職員	0件	0円
業者	0件	0円
入居者	0件	0円
入居者家族	0件	0円
遺族	0件	0円
在宅	0件	0円
一般	1件	7,000円
合計	1件	7,000円
その他寄付金収入		
寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

伊東市立養護老人ホーム 平和の杜 2017年事業報告

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

1. 「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります」を基盤として、利用者の皆さんが、かけがえのない人生を、最期までその人らしく生き続けることができるよう支援した。
2. 主の祈りをもとに、利用者一人ひとりの穏やかな日々の暮らしと、利用者相互の支えあい、助け合いで、なごやかでのびやかな共同体になりつつある。

B. 運営方針について

1. 伊豆高原十字の園敷地への移転新築を含めて、市と協議は、新設移転・移管については、理事長、施設長と伊東市との間で話し合いがもたれている状況。また、伊豆高原十字の園施設長とも話し合いももたれているが、具体的な計画はこれからとなる。
2. 職員の兼務職員を増やし、各部署の協力体制を作り、在宅事業の利用増加を図ることができた。
3. 伊豆高原十字の園と連携し、協力体制はとれているが、効率化までは図れていない。
4. 伊豆高原十字の園と合同の食事提供を研究し、徐々にではあるが効率化を図っている。
5. 1年を通し、一人ひとりが健康で四季を感じられるよう、作品の製作や行事、食材など取り組むことができた。
6. 職員のスキルアップを目指し、職員研修を行ってきたが、まだまだ研究していきたい。

II. 事業計画・目標の達成状況・実績

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. 養護老人ホーム
 - 1) 入居者一人ひとりが今の自分の生活や生きていることを活かすための環境が少しずつ整い、その人にとっての充実した生活とは何かが見えてきた。
 - 2) 他部署と情報を共有し、ご利用者の健康状態の把握はできたが、食品管理については課題が残った。感染拡大は防ぐ事が出来た。
 - 3) 入居者の個性を活かすことができず、相談内容を解決に結びつけることができない難題もあった。今後も努力したい。
 - 4) 毎日の食事で家庭観のある食事も提供することができた。伊豆高原十字の園との連携にて真空調理での食事も提供することができた。
 - 5) 伊豆高原十字の園との事務・総務の統合については、これからの課題である。
2. ショートステイ事業
適切に対応し、生活再建を目的とした支援ができた。
3. 生きがいデイサービス
個々の利用者がその人らしく生活し、自立した生活が継続できるよう支援し、四季折々の行事にて季節を感じ、楽しんでいただけるようサービスを提供できた。
4. 通所介護事業
 - 1) 平和の杜

「あなたと共に」ご利用者一人ひとりに向き合い、明るく家庭的な雰囲気の中でその人らしく生活できるよう支援できた。

14名/1日の平均利用目標は達成できた。

2) 一碧の杜「くつろぎの家」

地域交流会を実施することで改善点が見え、取り組んでいる。一人ひとりの対応については声掛けを大切にしている。利用状況は平均6.5名から7.5名となり、平日に限定すると8.1名となった。

5. 訪問介護事業；利用者の「自分ひとりではできないけれど、少し手を貸せばできること」をみつけたり、一緒に話し合っただけで考えたりしながら、共に作業をすることができた。
6. 居宅介護支援事業；ご本人、家族の意向に沿って、本人の生き方、家族の現在の暮らしが変わらないように、親身に傾聴し、共に考え、本人、家族の心や身体の負担が少しでも軽くなるようなサービスを調整できた。

B. 利用実績

	養護	特定施設	老人短期	生きがいデイ	居宅支援
	(指定管理)			(指定管理)	
利用定員	50名	24名	6名	15名	39名
利用数延数	17,492名	8,705名	435名	3,149名	358名
1日平均利用者数	47.9名	23.8名	1.1名	12.9名	29.8名
稼働率、稼働指数	95.84%	99.37%	19.86%	86.39%	76.49%
稼働日数	365日	365日	365日	243日	12月
単価(一人一日当たり)	6,460円	955円	3,809円	6,867円	10,726円
老人福祉事業収入 介護保険事業収入	113,000千円	8,316千円	1,657千円	21,586千円	3,840千円
職員数(常勤換算)	16.25名	1.71名	0.25名	3.16名	1.00名

	通所介護Ⅰ	通所介護Ⅱ	(再掲)	訪問介護	(再掲)	事業活動収入 職員数 計
	平和の杜	くつろぎの家	特定通所		特定訪問	
利用定員	15名	10名	—	26名	—	/
利用数延数	3,783名	2,353名	(1,720名)	33,811回	(32,367回)	
1日平均利用者数	14.6名	7.6名	(6.6名)	92.6回	(88.7回)	/
稼働率、稼働指数	97.37%	75.90%	—	—	—	/
稼働日数	259日	310日	(259日)	365日	(365日)	/
単価(一人一日当たり)	7,467円	7,953円	—	1回15分834円		/
介護保険事業収入	28,249千円	18,719千円	—	28,211千円	—	225,982千円
職員数(常勤換算)	5.20名	1.66	0.00名	5.23名	0.00名	34.46名

C. 資金収支、財務状況

1. 資金収支予算達成状況

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	223,548	225,982	218,359	220,031	5,189	5,950
施設整備による収支	0	0	150	0	△150	0
その他活動による収支	20,076	20,241	24,169	24,181	△4,093	△3,939
当期資金収支					946	2,011

・事業活動収入について；通所（平和の杜、特定、くつろぎの家）、訪問事業（特定）での利用数の増加により収入増となった。

・事業活動支出について；電気・重油・ガソリン単価の高騰及び前年度の車輛入れ替えに伴いリース支払いが開始し支出増になった。

2. 設備資金及び積立の状況

・該当なし

3. 借入金及び借入金償還の状況

・前年度本部より借入れた拠点区分間長期借入金 2 千万円を当年度に返済し、再度拠点区分間長期借入金 2 千万円を運転資金として借り入れた。

III. 対処すべき課題

1. 施設老朽化に伴い伊東市との設備更新の予算化を依頼する。
2. 居室棟の暖房器具の更新計画をする。
3. 通所事業所くつろぎの家の寒さ対策、駐車場の整備の計画をする。

IV. 利用者の状況

施設名 伊東市立養護老人ホーム

1. 施設利用の状況

区分		2017年	2016年
入居者数	男	14人	14人
	女	35人	33人
	計	49人	47人
利用日数	男	4,864日	5,097日
	女	11,477日	12,338日
	計	16,341日	17,435日
平均入居期間	男	5.3年	5.3年
	女	5.1年	4.9年
	計	5.2年	5.1年
最長入居期間	男	25.9年	24.9年
	女	16.1年	15.1年

区分		2017年	2016年
平均年齢	男	82.2歳	81.3歳
	女	82.6歳	82.1歳
	計	82.4歳	81.7歳
最高年齢	男	92歳	91歳
	女	97歳	96歳
最低年齢	男	70歳	67歳
	女	68歳	74歳
出身地域	圏内	47人	47人
	圏外	2人	2人
	県外	0人	0人
平均介護度		2.3	1.9

区分		2017年	2016年
新入居者数	男	1人	2人
	女	6人	1人
	計	7人	3人
退居者数	男	1人	2人
	女	4人	4人
	計	5人	6人
入院者数	男	3人	5人
	女	6人	7人
	計	9人	12人
入院日数	男	431日	141日
	女	720日	432日
	計	1,151日	573日

入居者の介護度区分

区分	2017年	2016年
自立	22人	19人
要支援	1人	1人
要介護度1	11人	15人
要介護度2	4人	5人
要介護度3	5人	3人
要介護度4	4人	2人
要介護度5	2人	2人

入居前住居

区分	2017年	2016年
自宅	7人	3人
病院	0人	0人
老健施設	0人	0人
療養型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他施設	0人	0人

退居者内訳

区分	2017年	2016年
死亡	2人	3人
帰宅	0人	0人
病院へ転出	3人	0人
他施設へ転出	0人	3人
その他	0人	0人

2. 在宅サービスの状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2017年度	2016年度
短期入所生活介護 (介護保険外)	利用延人数	21	38	42	20	37	62	45	42	31	29	27	41	435人	347人
	平均人数	0.7	1.2	1.4	0.6	1.2	2.1	1.5	1.4	1.0	0.9	1.0	1.3	1.2人	1.0人
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	365日
生きがい デイサービス事業	利用延人数	265	253	280	263	278	259	265	264	269	233	250	270	3,149人	3,307人
	平均人数	13.3	12.7	12.7	13.2	12.6	13.0	12.6	13.2	13.5	12.9	13.2	12.9	13.0人	13.6人
	開所日数	20	20	22	20	22	20	21	20	20	18	19	21	243日	243日
通所介護事業 (併設)	利用延人数	307	335	297	345	329	329	308	334	296	294	300	309	3,783人	3,570人
	平均人数	15.4	14.6	13.5	16.4	14.3	15.7	14.0	15.2	14.1	13.4	15.0	14.0	14.6人	13.7人
	開所日数	20	23	22	21	23	21	22	22	21	22	20	22	259日	260日
訪問介護事業	訪問回数	2654	2730	2668	2625	2821	2701	2695	3095	2920	3111	2705	3086	33,811回	31,046回
	訪問延時間	786	809	792	776	841	802	794	907	855	907	793	896	9,958時	9,460時
居宅介護支援事業	件数	33	31	31	32	30	29	27	26	27	27	29	36	358件	387件
通所介護事業 (単独)	利用延人数	162	191	180	177	202	181	209	234	214	204	188	211	2,353人	2,048人
	平均人数	6.5	7.1	6.9	6.8	7.8	7.0	8.0	9.0	8.2	8.2	7.8	7.8	7.6人	7人
	開所日数	25	27	26	26	26	26	26	26	26	25	24	27	310日	302日

V. 職員の状況

職種	配置		男		女		就職 転入		退職 転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施設長	1		1									
事務員	3	1	2		1	1					1	
相談員	2(3)		1(1)		1(2)							
介護支援専門員	1	1			1	1						
直接 処遇 職員	生活支援員	3		1		2		1	1	1		-1
	特定介護員	4		1		3				1		
	看護職員	2	1			2	1	1	1			
機能訓練職員												
栄養士	1				1							
調理師・員	3	3			3	3	1	1			-1	1
医師		1			1							
その他												
小計	20	7	6	1	14	6	1	2	2	2	1	0
在宅 事業	生きがいデイ	2(5)	2(1)	(1)		2(4)	2(1)		1	1		
	通所事業(併)	3(5)	2	1		2(5)	2		1			-1
	訪問介護	1(6)	(1)	(1)	(1)	1(5)						
	居宅支援	1				1						
	通所事業(単)	1(6)	1	1(1)		(5)	1			1		-1
小計	8	5	2		6	5		2	2		-1	-1
合計	28	12	8	1	20	11	1	4	2	4	0	-1

*現員は2018年度3月31日現在 就退職は2017年度内増減 ()は兼務

VI. 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
役員	0件	0円
職員	2件	20,000円
業者	0件	0円
入居者	0件	0円
入居者家族	0件	0円
遺族	0件	0円
在宅	2件	20,000円
一般	4件	427,637円
合計	8件	467,637円
その他寄付金収入		
寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

軽費老人ホーム（ケアハウス）第2アドナイ館 2017年度事業報告書

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

法人の理念に基づき、前年度同様毎朝近隣牧師、長老の方の協力のもと礼拝をし、精神的（霊的）な糧をいただき、理念の実践に結び付けた。各事業所にローズンゲンを配布した。根洗荘では聖書の学びを行いキリスト教精神と理念の理解に努めた。

B. 運営方針について

1. 私たちは、理念を基にチームとして職務に当たり、入居者のその人らしさを支えます。理念について解説する内容を作成し配布、説明した。

2. 私たちは、自立した個人として責任を持って職務に当たり、入居者の生き生きとした生活をつくります。

各事業所が個別ケアの目標をもって取り組み、地域に向けて発信の機会を増やした。

3. 私たちは、認め合った仲間として話し合い課題を解決し、チーム力を高めます。

各事業所年2回の上司面談を行い、自己啓発ファイルを使い個別目標の取り組みを行った。

◎新たな取り組み

介護基礎講座の開催・・・各月で、年6回の開催を行った。テーマ別参加状況は、接遇参加者27名、介護技術の基礎参加者24名、認知症について参加者25名、虐待防止参加者21名、緊急時対応参加者16名、リスクマネジメント参加者17名。管理者講座の開催・・・年2回主任を対象に行った。あんき、のんき建替え事業推進、あんき、のんき運営検討委員会を3回開催した。SOWT分析手法による分析と、建替え案について話し合った。当初6回の予定であったが委員の選出や日程の調整等で準備が整わず予定回数が行えなかった。新総合事業の開始・・・予防事業を行っている事業所について、総合事業への移行を行った。

II. 事業計画の達成状況

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. ケアハウス

地域に向けた取り組みの継続と交流の機会を作る

新たな行事 ハーモニカ演奏ボランティアの方を招き演奏会を2回開催。飼い犬・猫とのふれあいボランティアの方との交流。外出の機会は8回行い、外食や直虎資料館見学を行った。野点は、聖隷クリストファー高校の茶道部の生徒と一緒にいった。ミニバザーを開催した。

利用者のニーズに応えるため目標を持ち、自己研鑽し、共有する事でケアの向上を図る

法人での評価の取組による2回の面談時に自己啓発ファイルを用いて各自の目標を確認しそれぞれ取り組んだ。介護基礎講座に参加した。

2. トレーニング型デイサービス ぷらすワン

「ぷらすワンらしさ」をチームで共有し、ぷらすワンらしさをより分かりやすく発信する・ぷらすワンらしさを明確にするために、職員の他通所事業所研修を行った。他事業所と

ぷらすワンとの違いを知り、自分たちの役割を明確にし、コンセプトを作成した。「ぷらすワン最前線」を毎月発行し配布しているが、コンセプトを共通理解として作る事に時間がかかり、コンセプトは発信しきれていない。・家族会を開催できた。10名参加。ご家族と職員、ご家族同士の交流も見られた。

3. 十字の園 居宅支援事業所

地域における高齢者・家族と医療・介護の橋渡し役を担い、安心して年齢を重ねる事ができるようにサポートする。

・地域に向けた介護相談会を定期的開催はできなかった。根洗荘合同バザーでの開催のみ。・地域包括ケアに向けて勉強会は、各自での研修参加や勉強は進めた。共有が課題。・より良いプラン作成の為、ツールの検討や見直しをしたが変更未実施。

4. ヘルパーステーションほそえ

在宅生活を安心して継続して頂くために、サービスの統一と質の向上を目指します。

・一月一人の同行訪問を予定したが、6回実施に留まった。同行訪問は利用者の方の理解が得られ難い事と、時間の調整が難しかった事で、目標実施回数は未達になった。
・ヘルパー利用者増もあり、あんきとの連携を進める取組ができていない。

5. 認知症対応型通所介護 のんき

地域の方とご家族にのんきを知っていただく。

・地域行事の参加は清水地区の夏祭りに参加を検討したが、当日の天候や時間の都合でできなかった。機関誌発行はできていない。・流しそうめん、芋煮会、餅つきに家族、地域の方が参加。家族会を開催3名の参加、利用者の日頃知らない様子を見て、喜ばれた。

職員も楽しく働ける職場作り。

手書きの記録を記録システムに変更した。担当制を実施し、それぞれの職員の役割を明確にした。

6. げんきプロジェクト根洗荘

自立した生活が継続できるよう行事計画を充実し、精神面・体力面をサポートする。

・小学校での交流会では、ブンネ・メソッドを使い交流が進んだ。発表会も家族、地域に向けて行った。・げんき祭りを開催した。バザーを開催した。チラシを作成し、新聞に折り込んだ。車にロゴを掲示し送迎時に目に留まるようにした。

7. 小規模多機能型ホーム あんき

地域に向けた行事の充実。地域拠点としての役割推進。個別ケアの充実。

・地域カフェ、バザーを開催した。介護講座、開放日は実施できなかった。「あんき通信」を地域に4回回覧した。
・運営推進会議にて話し合いを行ったが、地域の理解が得られず、地域に根ざすための支え合いマップ作りは未実施となった。
・利用者一人を複数職員で担当するようにしたが、それぞれの役割について不明確な部分が多く、担当者会議を開催できていない。記録様式を見直し、個別でその人らしいケアプランとなる様に取り組んだ。

8. 公益的取組について

地域サロン（カフェ）

あんきで開催。今年度は湖東自治会と一緒にを行う予定。

中学生体験実習

第2アドナイ館で実施。中学生の体験であるが、利用者にとっても社会との繋がり場となっている。

小学生との戦争体験交流

根洗荘で開始。3小学校で開催できた。（3年生、6年生）

B. 利用実績

	ケアハウス	地域密着型 特定施設	通所介護 ふらすワン	認知症通所 介護 のんき	
利用定員	20人	20人	20人	12人	
利用者延数	7300人	7186人	3457人	2482人	
一日平均利用者数	20人	19.6人	14.2人	8.0名	
稼働率、稼働指数	100%	98%	75%	67%	
稼働日数	365日	365日	231.5日	310日	
単価（一人一日あたり）	7,511円	7,376円	6,181円	14,088円	（根洗荘含む）
介護保険事業収入 老人福祉事業収入（千円）	54,829	52,875	20,508	39,954	
職員数（常勤換算）		19.1人	5.6人	6.1人	（3.4人）
	小規模多機能 あんき	居宅介護支援	訪問介護	合計 事業活動収入 職員数	
利用定員（月）	24人	105人	—		
利用者延数	（月）219人	1163人	5978人		
月平均利用者数	（月）18.25人	（月）97人	（月）498人		
稼働率、稼働指数	76%	92%	—		
稼働日数（月）	365日	12月	257日		
単価（一人一日あたり）	（月）244,015円	12,509円	4,209円		
介護保険事業収入 （千円）	47,827	14,486	21,154	252,828	
職員数（常勤換算）	10.7人	3人	4.1人	52人	

C. 資金収支、財務状況

1. 資金収支予算達成状況

（千円単位）	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	256,881	252,828	246,691	257,565	10,190	△4,737
施設整備による収支	0	5,039	10,392	16,072	△10,392	△11,033
その他活動による収支	6,000	27,000	5,209	5,222	791	21,777
当期資金収支					589	6,006

◎収入について

事業活動収入が予算に対して減少したのは、おもに次の通り。

認知症デイサービスのんき利用実績を昨年と同様の人数を予定したが、長期利用者の利用終了後、新規利用が少なく前年比で△354人であった。予算では2640千円増を見込んでいたが予算比で△7780千円となった。あんき、居宅、ヘルパーは予算比増4460千円 第2アドナイ館、ぷらすワンは予算比減△650千円。

各事業については次の通り。

- ・ケアハウスは、当初予算に対して130千円減であるが概ね予算の推移となった。
- ・ぷらすワンは、8月～11月は利用者の入れ替わりが多く目標稼働率に達していないがその後、地域の通所介護事業所の閉鎖等の影響もあり、利用者増。目標稼働率80%に対し74.7%。予算比520千円減
- ・居宅支援事業所は、95%の目標に対し92%であった。総合事業利用者が増えている。地域内の居宅支援事業所の閉鎖等により、利用希望者が増えている。予算比200千円増
- ・ヘルパーは、目標に対し94%の稼働率となり前年に比べ改善が図られた。予算比1540千円増
- ・のんきは、前年度実績を基に84%の目標を立てたが66.7%。長期利用の方が終了し、新規利用者が増えず利用人数が減少。予算比7780千円減
- ・根洗荘は、前年と比べほぼ横ばいの稼働率となった。
- ・あんきは、目標稼働率75%に対して76%。当初予算比2720千円増
- ・その他の寄付金については、おもにご利用者、ご遺族、ご家族様からのもの878千円。

◎支出について

人件費増について、予算の計算上の誤りがあった。その分の差異が当初予算比11000千円増。事業費は930千円減。事務費は130千円増とほぼ予算通りの推移となった。

◎備品等購入（洗濯機、玄関サッシ、セキュリティソフト、車いす、介護用ベッド）633千円、

◎設備改修等（エレベーター、浄化槽ポンプ・警報機・ブロワー、誘導灯、エアロバイク、ちょうじゅソフト変更）851千円

◎特別増減の部について

固定資産物品 あんき 洗濯機 故障の為 廃棄（除却残 86千円）

2. 設備投資及び積立金の状況

あんきスプリンクラー設置 5680千円（内補助金 5030千円）

積立金はなし

3. 借入金及び借入金償還の状況

- ・運営資金不足分として本部から拠点区分間長期借入金27,000千円。
- ・元金償還10,392千円、利子1,730千円、年度末残高122,664千円

III. 対処すべき課題

- ・あんきの運営改善の為、今後の方向性を検討。
- ・主任の役割を明確化し、それぞれの統括部所において人材育成を進める。

IV. 利用者の状況

施設名 第2アドナイ館グループ

1. 施設利用の状況

区分		2017年	2016年
入居者数	男	2人	2人
	女	18人	18人
	計	20人	20人
利用日数	男	681日	628日
	女	6,504日	6,541日
	計	7,185日	7,169日
平均入居期間	男	1.9年	0.9年
	女	5.1年	4.1年
	計	4.7年	3.8年
最長入居期間	男	2.2年	1.3年
	女	8.7年	7.8年

区分		2017年	2016年
平均年齢	男	91.0歳	90.0歳
	女	90.3歳	89.5歳
	計	90.4歳	89.6歳
最高年齢	男	92歳	91歳
	女	101歳	100歳
最低年齢	男	90歳	89歳
	女	72歳	71歳
出身地域	圏内	20人	20人
	圏外	0人	0人
	県外	0人	0人
平均介護度		2.6	2.5

区分		2017年	2016年
新入居者数	男	0人	1人
	女	0人	4人
	計	0人	5人
退居者数	男	0人	2人
	女	1人	3人
入院者数	計	1人	5人
	男	0人	2人
	女	4人	6人
入院日数	計	4人	8人
	男	0日	97日
	女	66日	120日
計		66日	217日

入居者の介護区分

区分	2017年	2016年
自立	0人	0人
要支援	0人	0人
要介護度1	8人	10人
要介護度2	2人	1人
要介護度3	2人	1人
要介護度4	6人	5人
要介護度5	2人	3人

入居前住居

区分		2017年	2016年
自宅		0人	1人
病院		0人	0人
老健施設		0人	2人
療養型		0人	0人
グループホーム		0人	0人
他施設		0人	2人
合計		0人	5人

退居者内訳

区分	2017年	2016年
死亡	0人	3人
帰宅	0人	0人
病院へ転出	0人	2人
他施設へ転出	1人	0人
その他	0人	0人

2. 在宅サービスの状況

事業種別	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2017年	2016年
		通所介護事業(地域密着型)	利用者数	267	307	300	278	302	281	274	282	297	276	280	313
	月平均人数	14.8	15.0	15.0	15.0	14.4	14.8	14.1	14.1	15.6	15.3	15.6	15.6	14.9人	14.2人
	開所日数	18.0	20.5	20.0	18.5	21.0	19.0	19.5	20.0	19.0	18.0	18.0	20.0	231.5日	233.5日
通所介護事業(認知症)	利用者数	258	248	229	225	233	203	183	185	186	177	168	187	2,482人	2,836人
	月平均人数	10.3	9.2	8.8	8.6	8.6	7.8	7.0	7.1	7.2	7.4	7.0	6.9	8.0人	9.2人
	開所日数	25.0	27.0	26.0	26.0	27.0	26.0	26.0	26.0	26.0	24.0	24.0	27.0	310日	308日
訪問介護事業所	訪問延回数	435	518	526	461	495	474	545	538	519	459	449	559	5,978回	5,026回
	訪問延時	340	414	414	383	443	398	455	455	426	426	376	456	4,984時	4,201時
居宅介護支援事業所	月作成件	110	112	119	119	120	125	118	118	121	122	142	102	1,428件	1,158件
小規模多機能事業所	登録人数	17	17	17	18	18	18	19	20	20	19	18	18	219人	196人
在宅支援自主事業	利用者数	335	384	399	341	406	392	377	362	369	298	314	335	4,312人	4,376人
	月平均人数	16.8	17.5	18.1	17.1	17.7	18.7	18.0	17.2	18.5	16.6	15.7	15.2	17.2人	17.4人
	開所日数	20.0	22.0	22.0	20.0	23.0	21.0	21.0	21.0	20.0	18.0	20.0	22.0	250日	252日

予防・対象者含む

V 職員の状況

職種	配置	男		女		就職異動入		退職異動出		比較増減	
		常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施設長	1		1								
事務員	2	1		1							
生活相談員	1		1								
特定施設入居者生活介護	介護支援専門員	1			1						
	介護職員	8	3	1	7	3	1	1			
	看護職員	1			1						
	機能訓練職員	1			1						
栄養士	1				1						
調理師・員											
歯科衛生士		1				1					
その他			2				2				
小計		16	7	4	1	12	6	1	0	1	0
在宅部門	地域密着通所	4	2	2		2	2			1	(1)
	認知症通所	3	9	1	2	2	7				(1)
	小規模ホーム	7	9	3	1	4	8		3		
	居宅支援	3		1		2					
	訪問介護	2	6			2	6		1		1
	保険外通所		7		1	6		1		1	
小計		19	33	7	4	12	29	0	5	1	(1)
合計		35	40	11	5	24	35	1	5	2	(1)

* 現員は2018年3月31日 : 就退職は2017年度内増減

VI 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
役員	0件	0円
職員	5件	35,000円
業者	0件	0円
入居者	1件	793,000円
入居者家族	5件	50,000円
遺族	0件	0円
在宅	0件	0円
一般	0件	0円
合計	11件	878,000円
その他寄付金収入		
寄付等雑収入		
寄付物品		